



Environmental and Social Report

環境・社会報告書  
2015

「環境・社会報告書 2015」  
(前回:2014年6月発行)  
2015年6月発行  
(次回:2016年6月発行予定)  
信越化学工業株式会社  
〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号  
URL : <http://www.shinetsu.co.jp/>

本報告書に関するお問い合わせ先  
信越化学工業株式会社 広報部  
TEL.03-3246-5091 FAX.03-3246-5096  
e-mail : [sec-pr@shinetsu.jp](mailto:sec-pr@shinetsu.jp)  
本報告書に関するご意見・ご要望を当社ホームページで承っております。  
URL : [http://www.shinetsu.co.jp/jp/inquiry/kankyo\\_enq.php](http://www.shinetsu.co.jp/jp/inquiry/kankyo_enq.php)



## 企業理念

遵法に徹し公正な企業活動を行い、素材と技術を通じて、暮らしや産業、社会に貢献する。

## CSRの基本方針

信越グループは

- 1 持続的な成長により企業価値を高め、多面的な社会貢献を行います。
- 2 安全を常に最優先とする企業活動を行います。
- 3 省エネルギー、省資源、環境負荷低減に絶えず取り組み、地球環境との調和を図ります。
- 4 最先端の技術と製品を通じ、地球温暖化の防止と生物多様性の保全に取り組みます。
- 5 人権の尊重と雇用における機会の均等を図り、働く人の自己実現を支援していきます。
- 6 適時そして的確な情報開示を行います。
- 7 倫理に基づいた健全で信頼される、透明性ある企業活動を行います。

### グローバル・コンパクトの10原則を支持しています

信越グループは、2010年11月に国連グローバル・コンパクト(国連GC)に参加しました。当社グループは、国連GCが提唱する人権、労働基準、環境、腐敗防止の4分野における10原則を支持します。

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 原則 1: 人権擁護の支持と尊重     | 原則 6: 雇用と職業の差別撤廃       |
| 原則 2: 人権侵害への非加担      | 原則 7: 環境問題の予防的アプローチ    |
| 原則 3: 組合結成と団体交渉権の実効化 | 原則 8: 環境に対する責任のイニシアティブ |
| 原則 4: 強制労働の排除        | 原則 9: 環境にやさしい技術の開発と普及  |
| 原則 5: 児童労働の実効的な排除    | 原則 10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み |



### 編集方針

環境・社会報告書は、信越グループの環境、安全、品質などの活動とCSRの取り組みをご報告するために作成したものです。同時にレスポンシブル・ケア活動\*1の報告を兼ねています。報告書作成に当たっては、環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」、環境省の「環境報告書ガイドライン2012年度版」、「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン」を参考にしました。

#### 報告書対象期間(対象期間が異なる場合は個別に注記します)

国内 2014年4月1日～2015年3月31日  
海外 2014年1月1日～2014年12月31日

#### 報告書対象組織

信越グループ146社を対象としています。データ収集範囲は原則として下記の通りです。ただし、報告対象が異なる項目については、個別に注記しています。

##### ①環境活動報告

信越グループ124社の拠点を集計しています。2014年版に比べて報告範囲が拡大したため、報告データに差異があります。

国内生産事業所	67拠点(4拠点増)
国内非生産事業所	122拠点(8拠点増)
海外生産事業所	47拠点(1拠点増)
海外非生産事業所	57拠点

##### ②環境会計

信越化学

##### ③マネジメント体制、社会との関わり

信越ポリマーグループ\*2を除く信越グループ

##### \*1 レスポンシブル・ケア活動

化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動。

##### \*2 信越ポリマーグループの報告については、「信越ポリマーグループ環境・社会報告書2015」(2015年9月末発行予定)をご参照ください。



# Contents

## 目次

- 1 企業理念/CSRの基本方針
- 2 編集方針/目次
- 3 ごあいさつ
- 5 グループ概要
- 7 特集 社会課題の解決に挑戦する信越グループ

## マネジメント体制

- 9 CSR推進体制
- 10 コーポレートガバナンス
- 14 法令遵守
- 15 情報資産管理
- 16 リスク管理

## 環境・安全への取り組み

### 環境経営

- 17 環境経営推進 事業活動による環境負荷
- 18 環境会計
- 19 環境への取り組み
- 24 資源循環の取り組み
- 25 生物多様性保全の取り組みと汚染物質対策

### 環境・安全

- 27 課題と実績
- 安全
- 29 安全衛生・保安防災への取り組み

## 社会との関わり

- 31 株主・投資家の皆さま
- 32 お客さま
- 34 お取引先さま
- 35 地域社会
- 37 従業員

- 41 活動の歩み
- 42 RC報告書検証

※CSR(Corporate Social Responsibility)

企業の社会的責任。企業が利益を優先するだけでなく、企業が活動する上で関わる全ての者との関係を重視しながら事業活動を行うこと。

WEB 企業理念、CSRの基本方針、国連GCへの参加  
<http://www.shinetsu.co.jp/jp/company/csr.html#policy>

WEB GRIガイドライン対照表  
<http://www.shinetsu.co.jp/jp/company/csr.html#houkoku>

## 誠実に皆さまと信頼関係を築き 素材と技術で社会の発展に貢献します。

### 社会とともに

信越グループが目指しているのは、生活や産業を支える製品と技術を提供し、社会の発展に貢献することです。その目標を実現するために私たちは、安全を最優先すること、そして法令を遵守することを基本方針とし、環境保全など社会が抱える重要な課題に積極的に取り組んでいます。社会とともに成長し続けること、この命題に私たちは常に挑戦しています。

### 安全の最優先

ものづくりの現場で最優先の課題としていることは、安全を第一に考えることです。設備を新たに設計したり、改造を行う際には、安全性評価の手法を取り入れています。製造工程では安全を確保する作業手順を定め、その手順に従った作業を遵守するよう徹底しています。また、常に生産技術の向上と設備の改良に取り組み、併せて手順の改善や作業マニュアルの更新を進めることで、安全な職場環境の実現に努めています。その取り組みの一例として、業務上で危険を感じた体験を収集し、その改善策も含めた「ヒヤリハット事例」を全ての役員と従業員に周知しています。さらに、全社で共有した情報は社外にも公表しています。このような活動を通じて、職場に潜む危険を芽のうちに発見し、改善することで、事故につながらないよう全力を注いでいます。

### 環境の保全、資源の保護

#### ●環境保全と環境負荷の低減

生産技術の開発や改良を行う際には、環境性能を考慮しています。グループ横断組織である「技術委員会」が担当し指導を行っています。また、生産工程の

環境負荷の低減のみならず、製品が使用され廃棄される段階までの環境負荷を考慮しています。具体的には、原材料の受け入れから、製造工程、さらには最終製品の廃棄に至るまで定量的な分析を行い、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

#### ●資源、生物多様性の保護

生産技術や製品の改良にあたっては、資源の有効活用やエネルギーの削減に注力し、限りある資源を大切に使う努力を続けています。また、あらゆる事業活動において地球環境の保全に留意し、そこに生きる多くの生物が影響を受けることのないよう配慮しています。

### 公正で透明性の高い経営

公正で透明性の高い経営を実現するため、内部統制と監査体制の強化を絶え間なく進めています。また重要な経営情報の適切な開示にも努め、「内部統制制度」の厳格な運用を行っています。揺るぎない内部統制を実現するために、高い見識と豊富な経験を有する社外取締役と社外監査役にお迎えし、監督と助言をいただいています。さらに、社長直轄の独立組織である「業務監査部」が権限を持ち、厳格な監査を実施しています。

### 事業継続の基盤強化

塩化ビニル樹脂や半導体ウエハーなど世界市場で高い占有率を有する製品を多く生産し、お客さまにお届けしていることから、安定供給は信越グループにとって重要な使命です。自然災害などの不測の事態への備えを考慮し、生産拠点の分散化と原材料調達 の多様化を継続して進めています。

### 世界的な憲章、原則を支持

信越グループは、2006年に国際化学工業協会協議会 (ICCA) の「レスポンシブル・ケア世界憲章」の支持と実行を表明しました。さらに、2014年に改訂版レスポンシブル・ケア世界憲章にも署名しました。2010年には「国連グローバル・コンパクト」にも参加し、人権、労働基準、環境、腐敗防止の4分野における10原則の自主的な実践に取り組んでいます。いずれも信越グループの企業理念やCSRの基本方針に合致するものであり、今後ともこれらの憲章や原則に従って、世界の皆さまとより強固な信頼関係を築いていきます。

### 社会課題の解決と地域貢献活動

信越グループは、製品や技術を通じて私たちが直面しているさまざまな課題の解決に貢献したいと考えています。また、世界中のグループ各社やその従業員はそれぞれの地域に貢献する活動を進めています。例えば、アメリカの経済に大きな貢献をして来ているシンテック社では、多くの従業員が慈善福祉団体の活動に積極的に参加し、地域社会との信頼関係を深めています。

近年、社会が複雑、多様になる中で、企業の社会における責務はますます増大しています。当社グループは今後とも社会からの要請に応え、良き企業市民として活動を続け、課せられた責務を着実に果たしてまいります。

株主や投資家の皆さま、お客さま、お取引先さま、地域社会の皆さまとは、さらなる信頼関係の構築に努めてまいります。これからも一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2015年6月



代表取締役会長

金川 千尋



代表取締役社長

森 俊三

# 製品、販売力、生産技術、開発力で、 社会の発展に貢献しています。

信越グループは、信越化学とグループ会社145社(2015年3月31日現在)からなり、製造、販売などを担い、相互に協力して事業を展開しています。

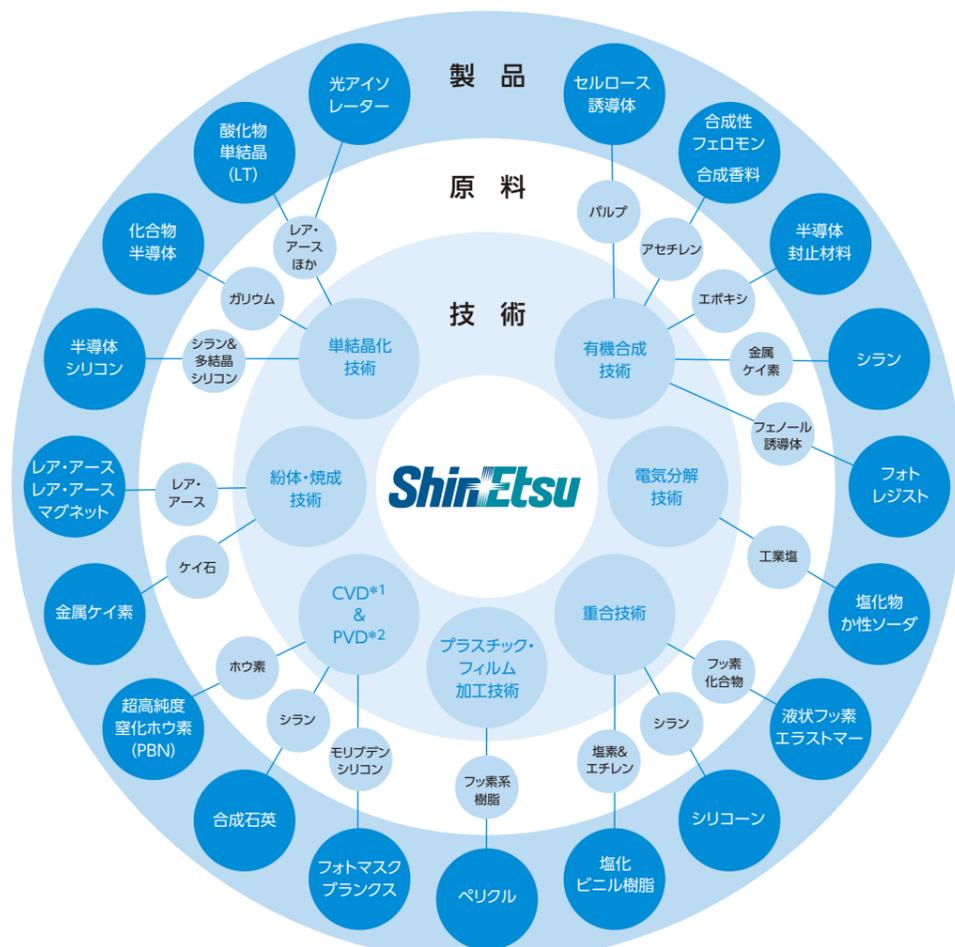
その事業分野は、塩ビ・化成系事業、シリコン事業、機能性化学品事業、半導体シリコン事業、電子・機能材料事業、その他関連事業の6つに分類されます。世

界シェア第1位の塩化ビニル樹脂、半導体シリコン、液晶用フォトマスク基板や、国内シェア第1位のシリコンなど、高いシェアの製品があります。

いずれの製品も、皆さまの身近なところで使用され、社会を支えています。

## 技術・原料・製品チャート

優れた素材は、優れた技術から生まれます。信越グループは、製品の多様化および高度化に対応する過程で蓄積してきた多彩な技術を製品に結びつけています。



\*1 CVD (Chemical Vapor Deposition) 化学的気相成長法。ガスに熱、光、電磁波などのエネルギーを加えて励起や分解を行い、基板表面での吸着、反応、解離を経て物質の薄膜を堆積する方法。  
\*2 PVD (Physical Vapor Deposition) 物理的気相成長法。固体原料を熱やプラズマのエネルギーで気化し、基板上に物質の薄膜を堆積させる方法。

## 会社概要

### 事業概要

商号 信越化学工業株式会社  
所在地 東京都千代田区大手町二丁目6番1号  
設立 1926年9月16日  
資本金 119,419百万円  
代表者 代表取締役社長 森 俊三  
従業員数 18,276人(連結) 2,757人(単独)  
事業内容 塩化ビニル樹脂、半導体シリコン、シリコン、希土類磁石、合成石英、セルロース誘導体などの製造、販売

従業員数の推移(単位:人)



### 信越グループ(主なもの)

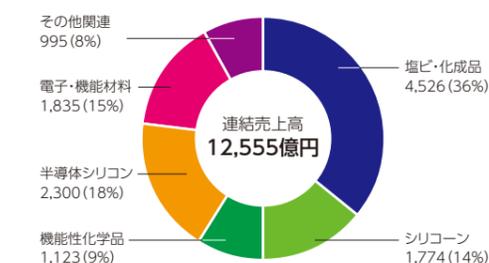
- 国内  
信越化学工業(株)、信越半導体(株)、信越ポリマー(株)、信越エンジニアリング(株)、長野電子工業(株)、直江津電子工業(株)、信越アステック(株) など
- 海外  
シンテック INC.、シンエツ ハンドウタイ アメリカ INC.、S.E.H.マレーシア SDN. BHD.、シンエツPVC B.V.、SEタイローズ GmbH & Co.KG、シンエツ ハンドウタイ ヨーロッパ LTD.、台湾信越半導体股份有限公司 など



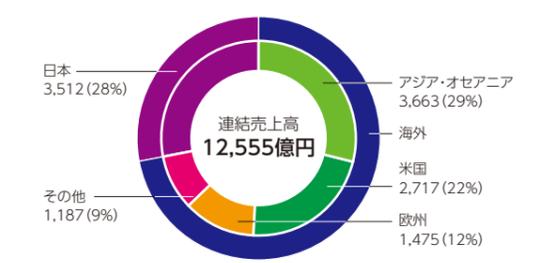
## 財務ハイライト



セグメント別売上高(2015年3月期)



地域別売上高(2015年3月期)



会社案内 <http://www.shinetsu.co.jp/jp/company/>

財務・IR情報 <http://www.shinetsu.co.jp/jp/ir/>

# 社会課題の解決に挑戦する信越グループ

信越グループの企業理念である「素材や技術を通じて、暮らしや産業、社会に貢献する」を、さまざまな課題の解決に挑戦することで具体化しています。

**塩化ビニル樹脂(塩ビ)**  
塩ビを使用した樹脂窓はアルミ窓と比較して、窓から逃げる熱量を71%削減可能(※)  
(写真)株式会社LIXIL



**レア・アースマグネット**  
電動機や発電機の効率向上  
次世代自動車の性能向上に必須(※)



省エネルギー

**シリコーン**  
ヨーロッパ、北アメリカ、日本でシリコーン製品が使用されることにより、年間5,400万CO<sub>2</sub>-トンの温室効果ガスの削減が可能(※)



**シリコーン**  
太陽電池モジュールの封止に使用することにより、太陽電池が30年以上使用可能



再生可能エネルギー

**塩化ビニル樹脂(塩ビ)**  
上下水道管が50年以上交換不要



長寿命のインフラ

半導体シリコン



高度情報化社会を支える基本インフラ

## 気候変動とその影響への対処

## インフラの整備とイノベーションの促進

## 生態系の保護と生物多様性の損失の阻止

## 健康的な生活の確保と福祉の推進

### 持続可能な社会の実現に向けて、日本がなすべきこと

今、先進国の目指すべきは、環境との調和や共存ができる社会です。その実現のために、まずは喫緊の課題である地球温暖化に対処しなければなりません。それには、エネルギー効率を大幅に改善してエネルギー消費を減らすこと、再生可能エネルギーの利用を増大すること、を同時に行うことは大変有効です。「日々の暮らし」でのエネルギー消費が約6割を占める今、省エネ家電やエコカーなどの普及とともに、住宅やビルの断熱性向上が今後の課題です。

先進国には環境問題以外にも、高齢化、老朽化していく都市インフラなど、解決すべきさまざまな課題があります。世界の中でも、日本はこれらの課題をいち早く経験する「課題先進国」ですが、日本の技術力を持つてすれば必ず解決できます。さらに、それを世界に展開することもできます。信越グループにも、これらの解決策に寄与する素晴らしい製品や技術があります。信越グループの今後の展開に期待しています。



信越化学社外取締役  
(東京大学元総長、  
(株)三菱総合研究所理事長)  
小宮山 宏

### 海洋汚染防止



**工業用セルロース誘導体**  
水中でのコンクリートの分離を低減できるため、水を汚さずにコンクリートを打ち込むことが可能

### 農薬の使用量の削減 生態系かく乱防止



**シリコーン**  
海洋生物の付着防止のための船底塗料や漁網防汚に、安全性の高いシリコーン使用

### 医薬品性能の最大化



**医薬用セルロース誘導体**  
体内で錠剤が溶ける位置や用量、時間を調節  
錠剤の苦みや臭いの除去

### 高齢社会への対応



**レア・アースマグネット  
シリコーン  
半導体シリコン**  
介護・支援用ロボットの関節モーター、クッション材、電子デバイス制御に使用

\* IoT  
[Internet of Things]の略。あらゆるものがネットワークを通じてつながること。  
※詳細は「環境・社会報告書2014」7-8ページをご参照ください。  
[http://www.shinetsu.co.jp/company/csr\\_bn.html](http://www.shinetsu.co.jp/company/csr_bn.html)

CSR推進体制

企業の社会的責任を果たすための活動を推進します。

CSR推進の取り組み

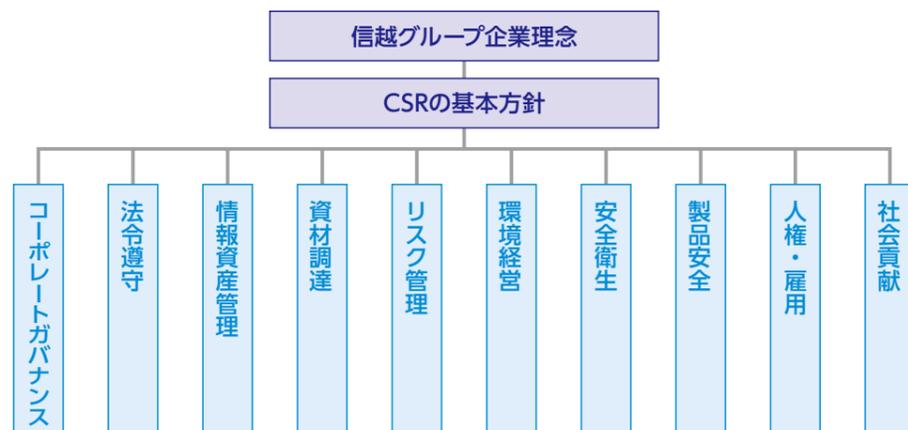
信越グループは「遵法に徹し公正な企業活動を行い、素材と技術を通じて、暮らしや産業、社会に貢献する」という企業理念を実践し、株主・投資家の皆さまやお客さま、お取引先さま、地域社会、従業員といった関連する多くの皆さまに貢献することが、当社グループの社会的責任と考えています。

その実行のためにCSRの基本方針と各種社内規程を定め、活動を進めています。企業活動のあらゆる面において、それらを全社的に有効、適切に推進するために、関連する部門長からなるCSR推進委員会を組織し、CSR担当取締役が統括しています。

当社グループとさまざまな関係者の関連図



企業理念、CSRの基本方針、当社グループの活動との位置付け



コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスは、経営上の最重要課題の一つです。

信越化学は、株主の皆さまの期待にお応えするために、企業価値を継続して高めることを目指しています。このために、事業環境の変化に迅速に対応できる効率的な組織体制や諸制度を整備しています。さらに、経営における透明性の向上や監視機能の強化の観点から、当社は株主や投資家の皆さまに対する的確な情報開示を行っています。

常務委員会があり、原則としてそれぞれ月1回開催しています。取締役会では会社の基本方針の決定や、会社法ならびに定款などで定められた重要な業務執行について審議し、決定を行っています。さらに、その他のさまざまな業務執行案件の検討や決定を、常務委員会で行っています。

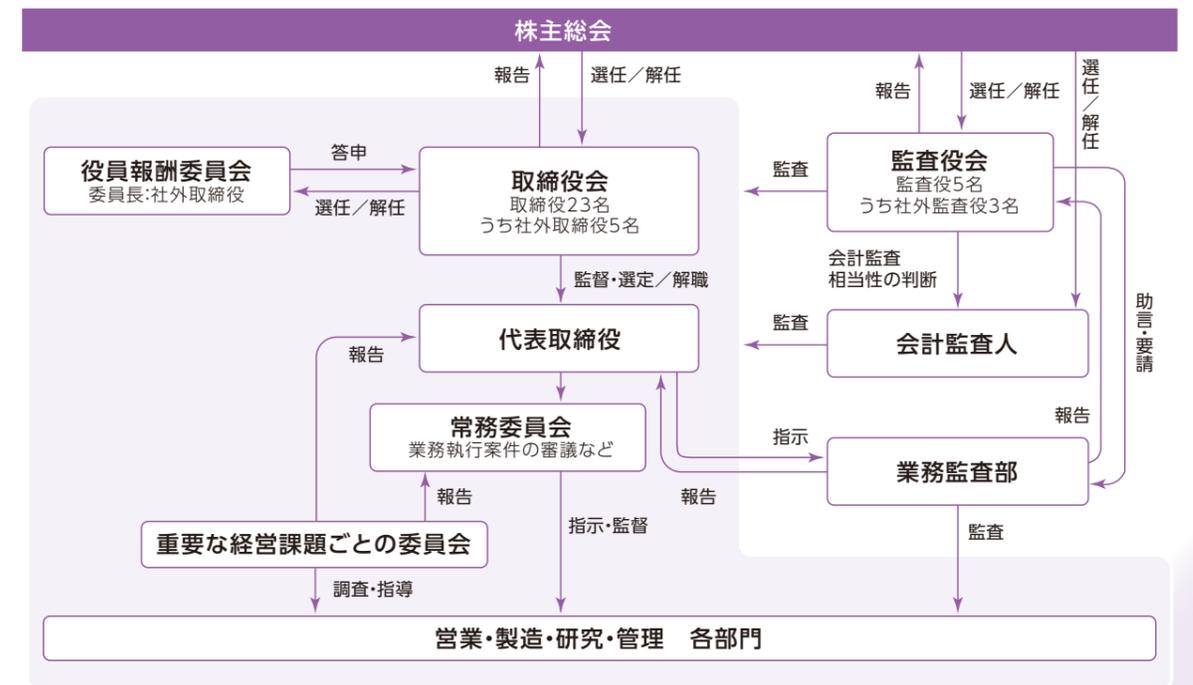
監査役会は、社外監査役3名を含む5名の監査役で構成しています。監査役は取締役会および常務委員会などの重要な社内会議にも出席するほか、書類の閲覧などを通じて取締役の業務執行に対する監査を行っています。また、毎月、業務監査部と定例会議を行い、活動状況や内部監査の結果などの報告を受け、その活動内容や監査テーマの選定などについて助言を行い、必要に応じて調査を求めています。

取締役会・常務委員会・監査役会

信越化学は監査役制度を採用しています。取締役会は取締役23名で構成され、そのうち5名は経営経験や卓越した知見を有する社外取締役です。

業務執行を検討、決定する機関として取締役会と

信越化学のコーポレートガバナンス体制



2015年6月26日現在

コーポレートガバナンス <http://www.shinetsu.co.jp/jp/ir/policy.html#cg>

### 社外取締役・社外監査役

信越化学は、独立した立場からの経営に対する監視や監督機能の充実を図るため、下記の社外取締役および社外監査役を迎えています。

社外取締役は就任以降、独立した立場からの経営に対する監督を十分に行うとともに、経営全般に関する大所高所からの助言を行っています。また、社外監査役は高度な専門的知識や幅広い経験を生かした監査により、当社の法令遵守体制の確保に貢献しています。

なお、いずれの社外取締役および社外監査役も、親会社や兄弟会社、大株主企業、主要な取引先の出

身者などではなく、高い独立性を有しています。

社外取締役および社外監査役の補佐は、関係する部署のスタッフが務めています。

社外取締役には、取締役会などの社内の重要な会議の開催の際に、必要に応じて事前に議案の連絡や内容の説明を行った上で、適宜意見をいただいています。

なお、取締役会に出席できなかった社外取締役および社外監査役には、議事録の写しを送付するなどの方法によって議事内容を報告しています。

#### 社外取締役・社外監査役一覧

地位	氏名	重要な兼職など
社外取締役	フランク・ピーター・ポポフ	米国ダウ・ケミカル社元CEO
	金子 昌資	旧(株)日興コーディアルグループ元取締役兼執行役会長 (株)一休取締役会長
	宮崎 毅	三菱倉庫(株)元代表取締役社長、元代表取締役会長、現相談役
	福井 俊彦	日本銀行元総裁 キッコーマン(株)社外取締役 一般財団法人キャノングローバル戦略研究所理事長
	小宮山 宏	国立大学法人東京大学元総長 (株)三菱総合研究所理事長 JXホールディングス(株)社外取締役 (株)ファミリーマート社外取締役
社外監査役	福井 琢	弁護士・柏木総合法律事務所マネージングパートナー 慶應義塾大学大学院法務研究科教授
	小坂 義人	公認会計士・税理士 太陽有限責任監査法人パートナー 飛悠税理士法人代表社員
	永野 紀吉	旧(株)ジャスダック証券取引所元代表取締役会長兼社長 SBIホールディングス(株)社外取締役 レック(株)社外取締役

2015年6月26日現在

### 取締役の報酬

社外取締役のフランク・ピーター・ポポフ氏を委員長、取締役3名を委員とする役員報酬委員会が役員報酬委員会規程に基づき、年2回の定例会議や必要に応じて行う電話会議などにより、取締役報酬の審査、評価を行い、取締役会に答申しています。

### 内部統制システム・業務監査

信越化学では「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社及び子会社の業務の適正を確保するための体制」(会社法第362条第4項第6号等)を整備するため、「内部統制基本方針」を定めています。

内部統制は経営の重要な責務であり、この方針に従って、内部統制システムを構築、運用しています。また、常時その見直しを行い、より適切で効率的な内部統制システムの整備に努めています。

社内業務の監査や財務報告に関わる内部統制評価に関する業務は、業務監査部が担当しています。監査や評価の結果については、社外取締役および監査役を含む役員に報告を行い、内部監査部門と社外取締役、監査役との連携を図っています。

また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制報告制度」についても、財務報告の信頼性と透明性を確保するため、内部統制推進チームを中心に対応しています。

### グループ会社の運営

信越化学は、グループ会社の自主性を尊重し、その育成と発展に努めるとともに、相互の共通利益の増進を図ることによって、グループ全体としての事業の発展を目指しています。

グループ会社は、「信越化学グループ会社運営規程」に基づいて運営されています。資本的、人的、物的な関係が強い会社は増減資、合併、解散、定款変更、決算案および予算、新規事業や設備投資の計画や、業務概況などについて、信越化学に事前協議や報告を行っています。

また、主要なグループ会社の社長が出席する会議を年3回開催するなど、グループ会社間の情報共有、交換も積極的に行っています。

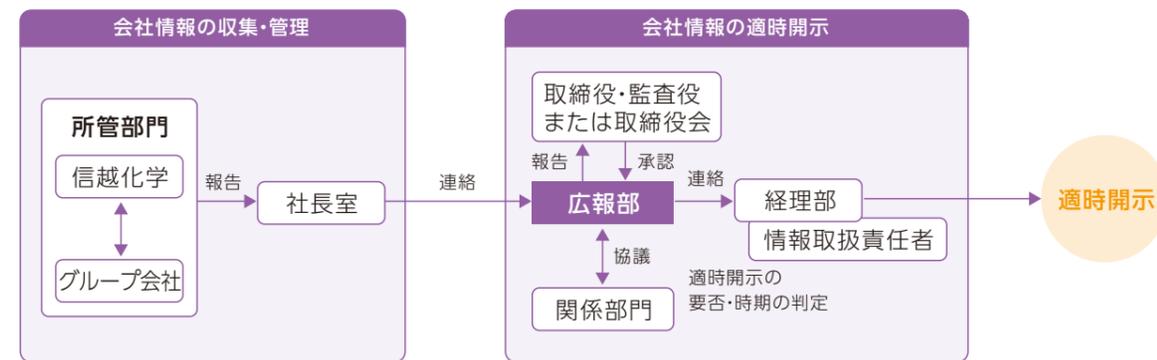
## 信越グループは法令遵守を徹底しています。

### 会社情報の適時開示に係る社内体制

信越化学は、証券取引所が定める情報開示に関する規則や金融商品取引法にのっとり、情報を開示しています。会社情報の把握、管理および適時開示に関して、「会社情報の適時開示に関する規程」および「内部者取引の規制等に関する規程」などの社内規程を定め、信越化学の各部署およびグループ各社に周知し、円滑な運営に努めています。

信越化学は、証券取引所が定める情報開示に関する規則や金融商品取引法にのっとり、情報を開示しています。会社情報の把握、管理および適時開示に関して、「会社情報の適時開示に関する規程」および「内部者取引の規制等に関する規程」などの社内規程を定め、信越化学の各部署およびグループ各社に周知し、円滑な運営に努めています。

### 適時開示に係る社内体制の状況



### 法令遵守の徹底

信越グループでは、法令を遵守した企業活動を行うため、企業理念や毎期の経営目標でも法令遵守を掲げ、その徹底に努めています。

企業活動に関係する法令の制定や改正があった場合には、法務部門が中心となり、社内に通達し、周知徹底を図っています。また、法令違反の事例が発生した場合には、注意を喚起する社内通達を行い、法令遵守の啓発に努めています。

役員および従業員は会社に対して「コンプライアンス誓約書」を提出し、一人一人が法令遵守に基づいた行動を日々の業務で実践していくことを誓約しています。万が一、不適切な行動があった場合には、懲戒などの処分が科されます。

また、「コンプライアンス相談室」を設置し、法令遵守に関して随時、相談や通報ができる体制を整えています。相談室は「コンプライアンス相談・通報規程」にのっとり、相談者にとって不利益になることのないよう秘密を厳守し、寄せられた内容の調査を行い、必要に応じて是正措置をとります。相談や通報したことを理由として、相談者に対していかなる不利益な取り扱いも行いません。

### 腐敗防止への取り組み

「贈収賄防止規程」を定め、公務員やお取引先さまなどに対する営業上の不正な利益の授受を禁止しています。さらに、「コンプライアンス誓約書」の提出により、お客さまやお取引先さまに対する不当な便宜や不当な要求の防止を徹底しています。また、倫理全般の遵守状況を人事評価の項目の一つとしているほか、汚職、横領、賄賂に関する定期的な内部監査を実施しています。

### 反社会的勢力との関係遮断

信越グループは、反社会的勢力に対して毅然とした態度を貫き、一切の関係を遮断することの徹底を、「内部統制基本方針」で宣言しています。この方針に基づいて、対応統括部署を中心とした社内体制の整備を図り、外部専門機関との緊密な連携の下、取引先と確認書や覚書を締結するなど、反社会的勢力の排除に向けた取り組みを強く推進しています。

### 輸出管理

信越化学では、国際的平和および安全維持の観点から「外国為替及び外国貿易法」などの輸出関連法規に対応するため、「安全保障輸出管理規程」を定め、該非判定や顧客審査、取引審査を実施し、内部監査や役員、従業員への教育、グループ会社への指導などを行っています。

## 情報資産の適切な管理と保護に取り組んでいます。

### 情報資産管理の取り組み

信越グループでは保有する情報資産の機密性\*1、完全性\*2、可用性\*3を維持するために定めた「情報資産管理基本方針」の下、「情報資産管理規程」を制定し、情報資産の保護、活用、管理、運用について定めています。

さらに、「情報資産管理基準」および「営業秘密管理基準」で、お客さま、お取引先さまなどに関する全ての情報の取り扱い、管理、保存期間、廃棄などの詳細を規定しています。また、知的財産権の保護が弱い地域への事業進出による意図しない技術流出を防ぐため、「技術流出防止基準」を定めています。

なお、情報資産管理部門に関わる教育の実施や、定期的に情報資産管理規程などの遵守状況の確認、社内監査を行っています。

- \*1 機密性  
許可されていない利用者から情報を保護すること。
- \*2 完全性  
改ざん、削除、破壊、損失から情報を保護すること。
- \*3 可用性  
許可された利用者が、必要ときに情報を使用できることを確実にすること。

### 情報セキュリティweb講座の開設

スカイワード・インフォメーション・システム(株) かせだ 梶田亮太、西條久生

当社は、信越グループで使用するさまざまなシステムの構築を行っています。2011年からは信越化学の情報資産管理部門と協力し、eラーニングシステムによる情報セキュリティweb講座を開設しています。この講座は、情報資産管理規程の周知徹底と情報資産の保護についての知識向上を図ることを目的としています。約60分間で講座の受講と確認テストを行い、理解度の低い受講者には信越化学の情報資産管理部門がフォローアップを行っています。



個人情報保護ポリシー  
<http://www.shinetsu.co.jp/jp/privacy.html>

### 個人情報保護

「個人情報の保護に関する法律」に基づき、個人情報を適切に保護するため、「個人情報保護ポリシー」を制定し、ホームページで公開しています。

また、法令に関する教育の実施や、階層別研修で個人情報保護に関する講義を行うことにより、お客さまやお取引先さまなどに関する個人情報の適切な取り扱いと保護の徹底に取り組んでいます。

### 知的財産に関する取り組み

信越グループでは、知的財産を核とした戦略的な企業経営を実践するために「知的財産基本規程」を制定し、知的財産の取得、管理、活用について規定しています。同規程では、当社グループの知的財産を第三者による侵害から保護すると同時に、第三者の全ての知的財産に関する権利を尊重することも定めています。

また、当社グループに関係する皆さまが当社グループの知的財産保有などの状況を的確に把握できるように、アニュアルレポートなどで情報を開示しています。

## 会社を取り巻くリスクに備えています。

### リスク管理規程

信越化学では「リスク管理規程」を制定し、当社および当社グループで発生する可能性があるリスクを具体的に定義し、予防などに関する管理体制の整備や、発生したリスクへの対応について定めています。

### リスクマネジメント委員会

「リスク管理規程」に基づき、担当取締役を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置し、リスク管理体制の構築や諸規程の整備、業務執行に伴って発生するリスクの発見と未然の防止に取り組んでいます。

また、事業継続計画や教育、情報提供など、リスク管理に関する横断的な活動を推進しています。重要な事項については、取締役会、監査役会および常務委員会への報告を行っています。

### 事業継続計画

信越グループは、技術に裏打ちされた優れた素材を社会に供給することが重要な社会貢献の一つと認識し、さらに、継続して素材を供給することは大きな企業責任である、と考えています。当社グループの

製品は、日本のみならず世界的に見ても市場占有率の高いものや、最先端の産業で特殊な用途で使われるものが多く、その供給停止によって大きな社会的影響を及ぼす恐れがあります。

当社では、大規模地震や爆発、火災などの重大な災害が発生した場合でも重要な製品の供給責任を果たすため、「全社事業継続マネジメント基準」を制定し、事業継続計画の策定や運用管理などの事項を定めています。さらに、これを受けた事業部および工場ごとの事業継続計画を策定しています。

### 緊急時における体制

緊急事態発生の場合、「災害対策本部基準」に基づき、社長を本部長とする「災害対策本部」が設置されます。その下に本社各管理部門による「対策本部付」、事業部長を本部長とする「事業部対策本部」、および工場長を本部長とする「工場対策本部」が設置されます。

この体制の下で、それぞれの対策本部・組織は事前に定められた業務基準に従って、緊急時対応を進めるとともに、事業継続のための対応を行います。

### リスク管理規程で定義するリスク

(1) 事業活動に係る要因によるリスク		
①経営リスク	⑥財務・会計リスク	⑪不正リスク
②研究開発リスク	⑦人事・労務リスク	⑫カントリーリスク
③製造・品質管理リスク	⑧環境・保安リスク	⑬法的リスク
④営業・販売リスク	⑨情報管理リスク	⑭その他
⑤購買リスク	⑩知的財産・契約・訴訟リスク	
(2) 事業活動外の要因によるリスク		
①経済的要因によるリスク	③政治的要因によるリスク	⑤自然環境・災害要因によるリスク
②社会的要因によるリスク	④科学・技術的要因によるリスク	⑥その他

環境経営

環境経営推進 事業活動による環境負荷

## 先進的な技術開発により、 社会全体の環境負荷低減に取り組んでいます。

### 環境経営の推進体制

信越グループでは、企業活動のあらゆる面で環境保全に配慮して、地球温暖化防止や持続的発展が可能な社会の構築を目指しています。生産工程における温室効果ガスの削減や環境負荷の低減のために高い目標を設定して、クリーンな生産プロセスの実現に努めています。

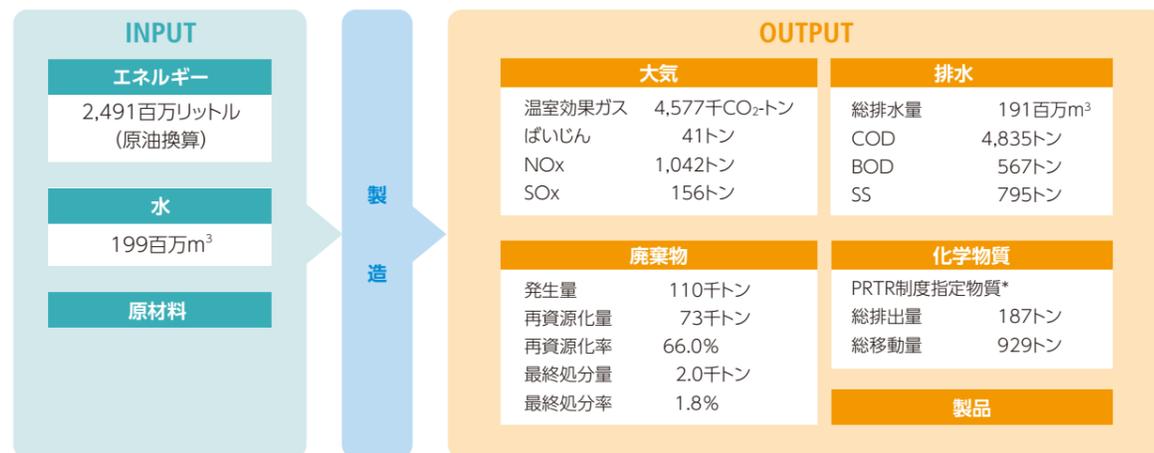
毎年、信越グループ環境保安管理方針を作成し、グループ環境保安会議で信越化学の全工場および国内外のグループ各社に周知しています。信越化学の全工場およびグループ各社はこの管理方針に基づいて年間の改善目標を設定し、活動に取り組んでいます。それぞれが1年間に数回の内部監査を行い、目標の

妥当性の検討や達成度の進捗を確認し、活動のレベルアップを図っています。さらに、定期的を実施している環境保安監査でも、活動内容や達成度の確認を行っています。

### 環境負荷低減の推進

信越グループは製品の製造段階での環境負荷の低減に取り組むだけでなく、製品の使用段階での環境負荷の低減や省エネルギー、省資源にどのくらい貢献できるかを重視し、研究・製造・販売部門が三位一体となって製品の開発を行っています。その製品は、工業、生活、再生可能エネルギーなどの、幅広い分野で使われています。

### 事業活動による環境負荷



\* PRTR制度指定物質  
 「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律に基づく、化学物質の排出移動量届出制度」に基づく対象物質のうち、第一種指定化学物質である426物質。  
 ※電力のCO<sub>2</sub>換算係数は削減努力が明確になるよう、2000～2009年の平均値を使用しています。  
 ※廃棄物およびPRTR制度指定物質に関しては各国の基準が異なるため、国内の信越グループのみの集計です。  
 ※再資源化率は、廃棄物発生量に対する再資源化量の割合です。  
 ※最終処分率は、廃棄物発生量に対する最終処分量の割合です。

環境経営

環境会計

## 環境保全のためのコストと 経済効果を定量的に測定しています。

### 環境会計

2014年度の信越化学の大気汚染、水質汚濁、化学物質の環境への排出などの環境負荷低減対策や、地球環境保全のための省エネルギー対策、資源循環

による廃棄物削減、リサイクルのための投資や発生した経費を、環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に集計しました。

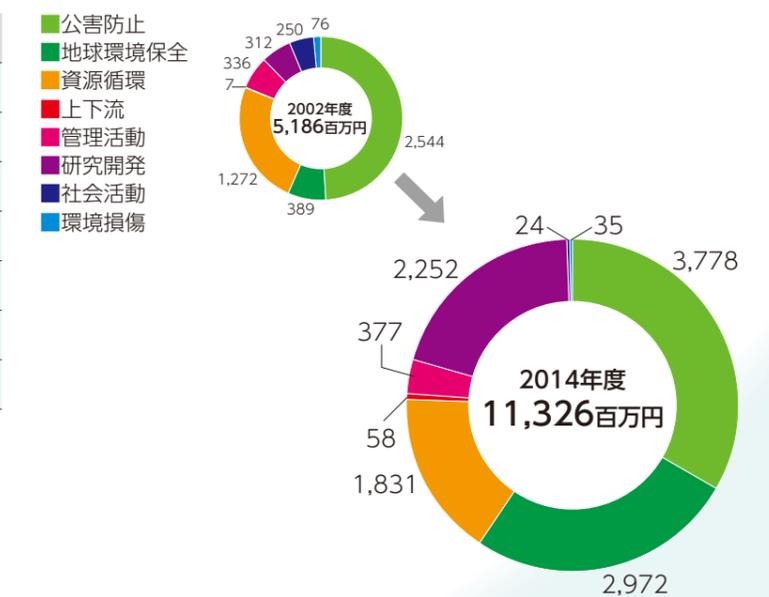
### 2014年度環境保全コスト集計表

コスト分類	内容	投資額	経費
事業エリア内コスト		1,586	8,580
①公害防止コスト	大気汚染防止、水質汚濁防止、騒音対策など	438	3,778
②地球環境保全コスト	省エネルギー、地球温暖化防止など	450	2,972
③資源循環コスト	廃棄物発生抑制、リサイクルなど	698	1,831
上下流コスト	環境物品の調達、容器包装の対策など	0	58
管理活動コスト	環境管理、環境負荷監視、環境教育など	4	377
研究開発コスト	環境保全製品やプロセスの研究開発など	0	2,252
社会活動コスト	環境保全に対する寄付や支援など	0	24
環境損傷コスト	汚染負荷量賦課金など	0	35
合計		1,591	11,326

### 環境会計経済効果(2014年度)

効果の内容	経済効果額(百万円)
省エネルギー	663
収率向上	1,309
生産工程	1,151
副資材費用	158
廃棄物処理費用の削減	-118
有価物での売却益	121
合計	1,975

### 環境保全コスト経費の推移(百万円)



# 省エネルギーと地球温暖化防止、環境負荷低減、環境保全、資源循環とあらゆる問題に取り組んでいます。

## 気候変動への対応

**中期目標** 信越化学単体で、2015年に1990年比で温室効果ガス排出原単位を50%に削減する。

- 2014年度目標** 省エネルギー原単位を平均年率1%削減する。
- 2014年度実績** 信越化学単体では1990年比55.0%(2013年度比3.5%減)、信越グループでは57.9%(2013年度比増減なし)。
- 2014年度評価** 信越化学各工場での省エネルギー対応が貢献して、良い結果となった。
- 2015年度目標** 省エネルギー原単位を平均年率で1%削減する。

信越グループ全社で生産工程の改善や歩留まりの向上などを推進した結果、全社の基準製品換算生産量は2013年度と比較して3.0%増加しましたが、エネルギー使用量は2.4%の増加に抑えました。

### エネルギー使用量の推移(原油換算)



### 温室効果ガス排出量 1990年比原単位数の推移



### 温室効果ガス排出量の推移



### エネルギー別使用量詳細一覧(熱量換算)

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
スコープ1	天然ガス	15.5	18.3	20.3	24.1	24.2	25.1
	A重油+C重油	1.1	0.6	0.6	0.7	0.5	0.3
	LPG+LNG	1.4	1.9	1.5	1.5	1.6	1.3
	その他	1.0	0.8	0.8	0.5	0.7	0.8
スコープ2	購入電力	42.3	45.2	48.3	55.6	61.3	63.4
	購入スチーム	6.3	6.0	6.1	5.8	5.6	5.4
合計	67.6	72.8	77.6	88.2	93.8	94.1	96.3

### 温室効果ガスのスコープ3排出量

2014年度の信越グループの温室効果ガススコープ3排出量\*1は4,423千CO<sub>2</sub>-トンで、サプライチェーン\*2全体の49%を占めています。事業活動の増加に伴い、2013年度より18.1%増加しました。

- \*1 スコープ3排出量  
自社の上流および下流からの排出量。
- \*2 サプライチェーン  
ある製品の原材料が生産されてから最終消費者に届くまでの過程。

### 信越グループカテゴリ別スコープ3排出量



環境データ集 <http://www.shinetsu.co.jp/jp/company/csr.html#houkoku>

### CDPジャパン500でCDLIに選出

当社は2014年に、CDPジャパン500でCDLI (Climate Disclosure Leadership Index) に初めて選出されました。

CDPIは、投資家および世界経済に向けて開示した質の高い気候変動情報により、持続可能な経済の実現を図る国際NGOです。当社がCDPIの情報開示システムを通して気候変動への取り組みに関する情報を開示した結果、調査対象となった日本企業500社中、情報を開示した企業のうちの上位10%に入り、気候変動の情報開示に優れた企業として評価されたものです。

当社はこの情報開示システムで、グループ全体で組織的、積極的に温室効果ガスの削減に取り組んでいることに加え、塩化ビニル樹脂、レア・アースマグネット、LEDパッケージ材料などの当社製品を使用することでも温室効果ガスの削減が可能になることを訴えました。今回の評価は、当社の営業、研究、製造の三位一体の日頃の努力の成果であると考えています。



### 水資源の保全および水質汚濁物質の削減

- 2014年度目標** 取水量を原単位で平均年率1%削減する。
- 2014年度実績** 信越化学は原単位で、2013年度比10.7%削減、信越グループでは3.3%削減。
- 2014年度評価** 冷却塔の循環水を効率良く稼働させた結果、冷却塔に投入する取水量を削減できた。
- 2015年度目標** 取水量を原単位で平均年率1%削減する。

信越グループの主な生産拠点は、比較的水が豊富な日本にあります。しかしながら、世界のさまざまな地域では水が不足しており、国連環境計画は、2025年には一部の地域で水不足がさらに深刻になると予測しています。当社グループは水不足のリスクのある地域でも事業を継続できるよう、日頃から取水量の削減や水のリサイクル利用など、水資源の保全に積極的に取り組んでいます。

また、良好な水質で排水を行うために水質汚濁物質に関する規制値を遵守し、水質分析によって遵守の状況を確認しています。

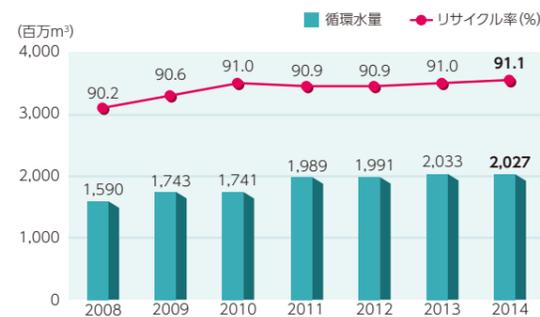
#### 取水量の推移



#### BOD排出量の推移



#### 循環水量の推移



#### COD排出量の推移



### 信越化学 群馬事業所の水資源保全の取り組み

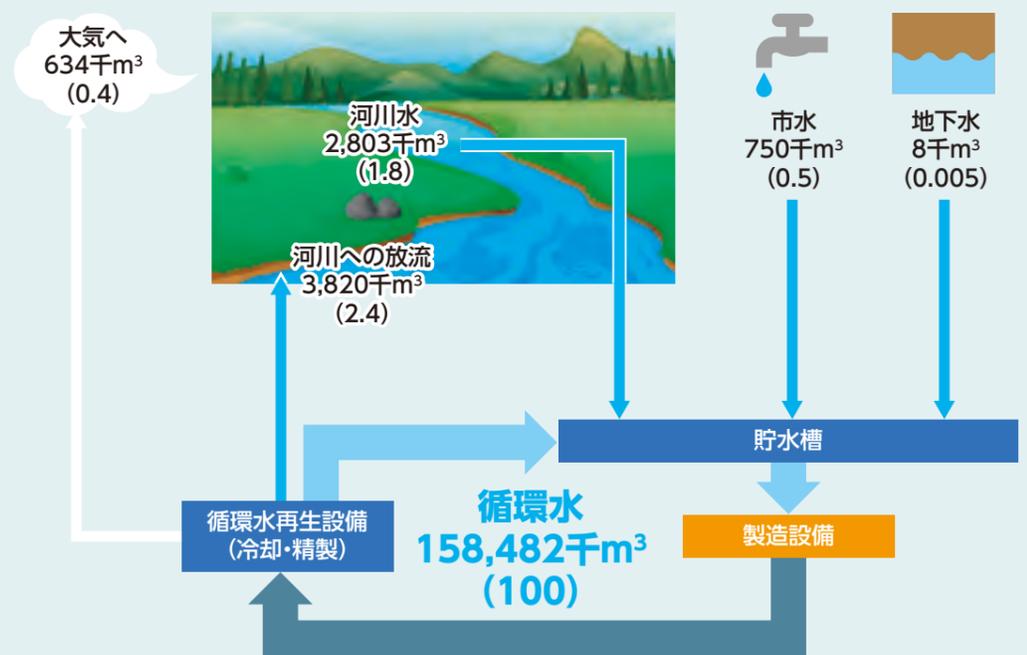
信越化学 群馬事業所では、シリコンを中心とした高性能材料の生産を行っています。群馬県の南西部という内陸にあることから、生産に必要な水のほとんどを周囲の河川から取水し、工場から出る水は浄化処理を行い河川に戻しています。

群馬事業所は自然豊かな環境にあります。周囲の河川の下流には首都圏があり、それらの河川は首都圏住民の生活や工業、農業を支えています。化学製品の製造には大量の水を必要としますが、同事業所は河川からの取水を最小限に抑えて、貴重な水資源の保全に努めています。そのために、取水を事業所外へ漏らさず、**再生循環させて**、製造工程や冷却水などに**可能な限り再利用**しています。

また、河川への放流の際には**浄化処理**を行うとともに、**水質の管理**を徹底しています。水処理設備の運転状態を常時モニタリングし、最適な状態を保つように努めています。定期的に放流水の水質分析を行い、高い水準で基準を遵守していることを確認しています。処理設備の自然災害への対策として、豪雨時の雨水流入防止のための雨水分離も行っています。さらに、2014年からは大規模地震を想定した耐震補強工事などを行っています。

群馬事業所では今後も限られた水資源を有効に利用するとともに、河川の上流に立地する工場としての責任を果たしていきます。

#### 信越化学 群馬事業所の水の流れ



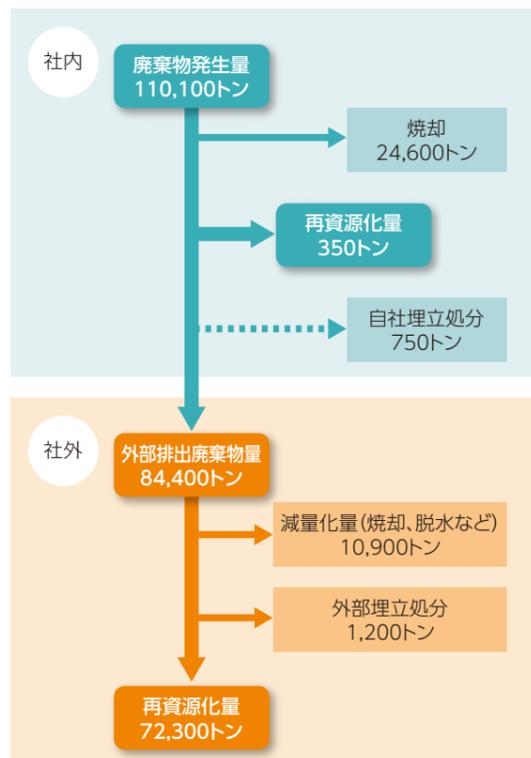
## 最新の技術を駆使して 循環型社会の構築に取り組んでいます。

### 廃棄物削減

- 2014年度目標** 廃棄物ゼロエミッション(廃棄物発生量に対する埋め立て処分の割合1%以下)の達成。
- 2014年度実績** 信越化学の埋め立て処分率は1.88%(2013年度比0.18%増)、国内の信越グループでは1.77%(2013年度比0.03%増)。
- 2014年度評価** 信越化学の再資源化量の増加率は、発生量の増加率を上回った。
- 2015年度目標** 廃棄物ゼロエミッションの達成。

2014年度は、生産量が増加したことにより、再資源化量は14.2%、最終処分量は12.5%、それぞれ増加しました。廃棄物は外部業者での処理が多く、外部の廃棄物処理場の現地確認も行っています。廃棄物ゼロエミッションを達成するため、今後も廃棄物の再資源化をさらに検討していきます。

### 廃棄物のフロー



※廃棄物は各国の基準が異なるため、国内の信越グループのみの集計です。

### 廃棄物再資源化量の推移



### 廃棄物最終処分量の推移



世の中にある製品の多くは使用後に廃棄されますが、信越グループでは、限りある資源を効率的に利用するとともにリサイクルを行って、持続可能な資源の循環を進めています。当社グループではお客さまや関連の業界団体とも協力し、最新の技術を駆使して製品を回収し、資源を取り出して当社の製品に再利用しています。この取り組みは、お客さまと当社グループの廃棄物削減が可能になると同時に、資源や環境の保全にも貢献しています。

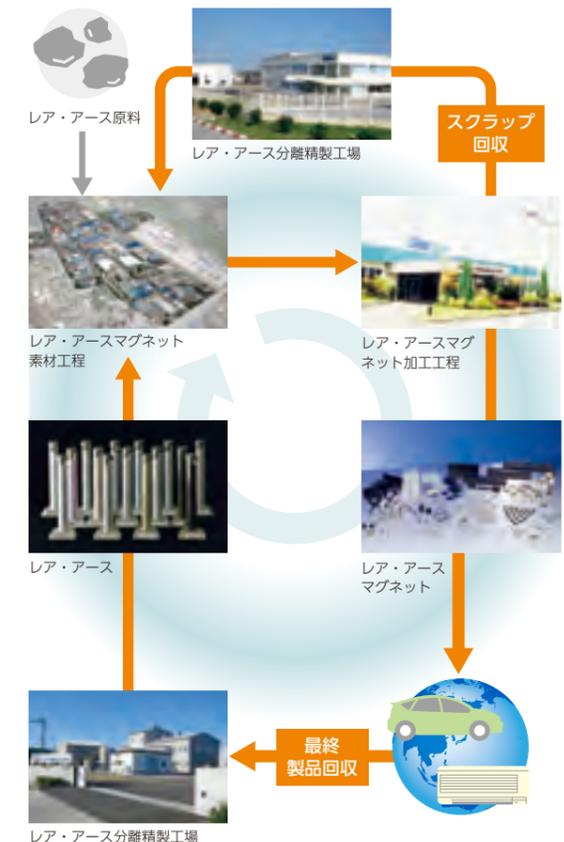
### レア・アースマグネットのリサイクル

当社グループではレア・アース原料からさまざまなレア・アースを取り出す分離精製技術を用いて、レア・アースマグネットを一貫生産しています。

レア・アースは埋蔵量が少ない上、鉱山のある地域の偏りによる調達リスクがあります。また、採掘方法によっては鉱山周辺の環境を破壊する恐れがあります。これらのリスクに対応するため、2007年から、レア・アースマグネットの加工工程で出るスクラップのリサイクルを行ってきました。さらに、2013年3月からはこの技術を発展させて、廃棄された省電力エアコンやハイブリッドカーに使用されているレア・アースマグネットを回収し、レア・アースを取り出してレア・アースマグネットの主原料としてリサイクルしています。

これらの取り組みによって、レア・アースという貴重な資源と、その周辺の環境を守ることが可能になりました。レア・アースマグネットは循環型製品として、経済的にも社会的にも、大きな価値を生み出しています。

### レア・アースマグネットのリサイクルの流れ



### 塩ビ製品のリサイクル

塩ビを使用した製品は、リサイクルが進んでいます。さまざまなリサイクルの方法がありますが、最も多く行われているのはマテリアルリサイクルです。

マテリアルリサイクルは、塩ビ製品を原料にして新しい塩ビ製品に再生する方法です。塩ビ管や床材などの塩ビ製品は、異物混入の影響も小さくマテリアルリサイクルの容易な素材のため、さまざまなマテリアルリサイクルが実施されています。中でも、塩ビ管や継手の6割が塩ビ管および継手に再生され、農業用フィルムは7割が床材として再生されています。

## 化学会社の責務として、 生物多様性の保全に取り組んでいます。

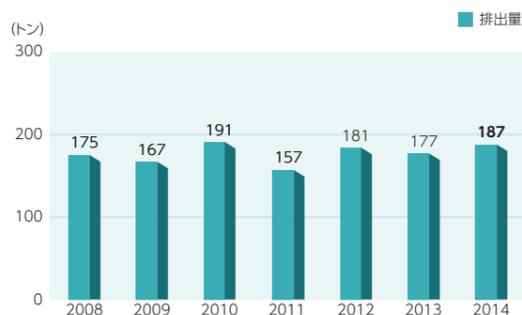
### 生物多様性の保全

信越グループは、製品開発の段階から環境に配慮した製品設計を行っています。同時に、化学物質管理の徹底や地球温暖化防止、エネルギー使用量の削減、廃棄物削減、水質汚染防止などにも、化学会社の責務として積極的に取り組んでいます。さらに、工場近隣の環境美化活動や植林なども行っています。また、お取引先さまにも、森林伐採などに対して環境保全の取り組みをお願いしています。

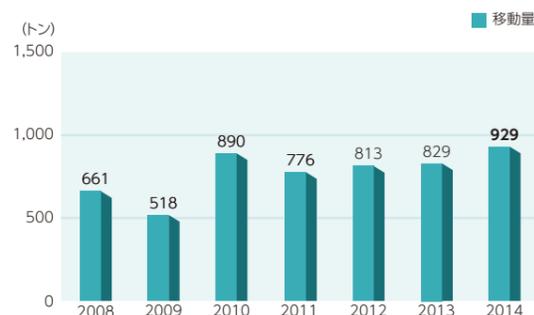
### 化学物質管理

PRTR制度指定物質のクロロメタン取り扱い量に対する排出量の割合は296ppmで、2013年度比原単位で12.7%改善しました。これは製造および除害設備の適正な運転条件を確立したためです。

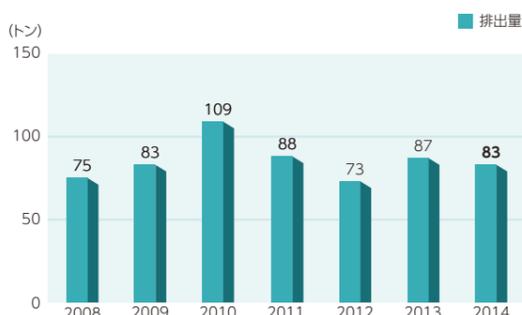
PRTR制度指定物質 総排出量の推移



PRTR制度指定物質 総移動量の推移

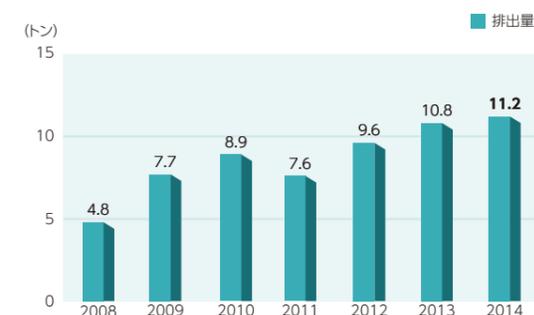


PRTR制度指定物質 クロロメタン排出量の推移



※化管法におけるPRTR制度に基づいた、国内の信越グループのみの集計です。

PRTR制度指定物質 クロロエチレン排出量の推移

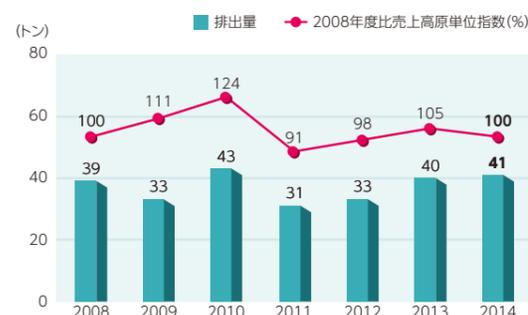


### 大気汚染防止

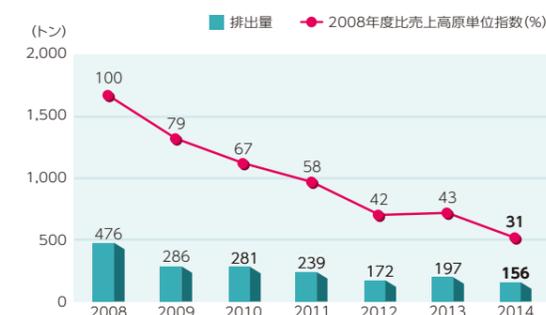
信越グループでは、グループ各社で大気汚染物質の排出量の削減目標を設定し、削減に取り組んでいます。また、グループ各社で排出ガスの分析を定期的に行い、法令を遵守していることを確認しています。

2014年度は生産量の増加に伴い、ばいじん排出量が増加しました。しかしながら、硫黄成分の少ない燃料に転換したことにより、硫黄酸化物(SOx)排出量は21%減少しました。

ばいじん排出量の推移



SOx排出量の推移



### 土壌汚染防止

各工場では、土壌汚染対策法に基づき、必要に応じて地下水や土壌のモニタリングを行っています。信越グループ全社で、土壌汚染はありませんでした。

### 工場周辺の河川清掃

信越グループの各工場では、地域の環境美化活動を積極的に行っています。信越化学 武生工場と近隣のグループ会社では、毎年6月に工場西側を流れる御清水川の清掃活動を行っています。2014年は35名が参加し、水藻や川壁の草の除去や、空き缶などのごみを拾いました。当日は梅雨時のあいにくの天気でしたが、参加者全員が手際よく作業を進めた結果、元のきれいな河川がよみがえり、工場周辺地域の環境美化に一役買うことができました。



環境・安全

課題と実績

# レスポンスブル・ケアコードにのっとり、 さまざまな活動をしています。

信越グループは毎年度、レスポンスブル・ケアコードにのっとり環境保安管理計画を作成し、グループが一体となって「環境保全」「爆発や火災などの重大災害防止」「労働災害の防止」などの重点課題に取り組んでいます。

## 信越グループの重点課題(目標)、2014年度の実施状況、評価および2015年度の実施予定項目

### 環境

管理項目	重点課題(目標)	2014年度の実施状況	評価	2015年度の実施予定項目
環境保全	1. 環境事故件数ゼロ	・環境事故件数ゼロを達成	◎	・環境事故件数ゼロ
	2. 環境管理の徹底	・環境関連法に基づく規制などへの適切な対応を継続	◎	・環境関連法に基づく規制などへの適切な対応
	3. 省エネルギーの推進 (原単位*1で、平均年率1%削減)	・信越化学は原単位で2013年度比6.1%削減 ・信越グループでは2013年度比0.6%削減	△	・原単位で、平均年率1%削減
	4. 温室効果ガスの削減 (原単位で、2015年までに1990年比50%に削減)	・1990年比で信越化学は55.0%、信越グループでは57.9%	△	・原単位で、2015年までに、1990年比50%に削減
	5. 廃棄物の削減 (廃棄物ゼロエミッションの推進 (埋立処分率1%以下))	・廃棄物埋立処分率 1.77% ・発生原単位による削減目標を設定できなかった	×	・廃棄物ゼロエミッションの推進(埋立処分率1%以下) ・発生原単位による削減目標の設定
	6. 水質汚濁物質および大気汚染物質の排出量削減	・生産量が増加した中、BOD、NOx、SOxを削減した ・2015年度目標(2010年度基準)を設定できなかった	○	・2015年度目標(2010年度基準)の設定と対策の実施 ・水質汚濁防止法に係る有害物質使用特定施設および貯蔵指定施設の設置基準、定期点検の適正な対応
	7. 取水量の削減	・信越グループで取水量を2013年度比0.4%削減、原単位では2013年度比3.3%削減	◎	・原単位で、平均年率1%削減 ・リサイクル率向上のための対策立案と実施
化学物質管理	1. 新規化学物質の管理の徹底	・製造許可量(確認量)と生産実績管理を徹底 ・有害性情報などの取得時の報告を周知	◎	・製造許可量(確認量)と生産実績管理の徹底 ・有害性情報などの取得時の報告の周知
	2. 化学物質管理に関する法令等への対応	・化審法*2、労働安全衛生法、化管法*3、毒物及び劇物取締法などの規制法の遵守や法改正に対応 ・海外の法令を遵守	◎	・化審法、労働安全衛生法、化管法、毒物及び劇物取締法などの規制法の遵守と法改正への対応 ・海外の法令への対応
	3. 化学物質の有害性の情報提供	・工事業者および協力会社へ、取り扱い物質に関する情報の提供と周知を実施	○	・工事業者および協力会社への取り扱い物質に関する情報提供と周知

\*1 原単位  
基準製品換算生産量から算出した原単位。

\*2 化審法  
「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称。人の健康および生態系に影響を及ぼす恐れがある化学物質による環境の汚染を防止することを目的とした法律。

\*3 化管法  
「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称。事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することを目的とした法律。

\*4 KY活動  
危険予知活動。工事や製造などの作業に従事する作業者が、事故や災害を未然に防ぐことを目的に、その作業に潜む危険を予想し、指摘しあう活動。

\*5 5S活動  
整理、整頓、清掃、清潔、しつけを実践すること。5Sは、5項目のローマ字での頭文字がいずれも[S]となっていることに由来する。

※レスポンスブル・ケアコード  
レスポンスブル・ケアを実施する際の基本的な実施事項を定めたもの。「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」「社会との対話」の6つの活動分野ごとの事項と、それらをシステムとして運用していくための「マネジメントシステムコード」で構成されています。

### 安全

管理項目	重点課題(目標)	2014年度の実施状況	評価	2015年度の実施予定項目
保安防災	1. 重大事故件数ゼロ	・重大事故件数ゼロを達成	◎	・重大事故件数ゼロ
	2. 設備・プロセスの安全性の向上	・プロセスリスクアセスメントを実施 ・運転マニュアルを整備 ・保安力向上センターによる現地評価を受審	○	・非定常作業、操業の安全対策の見直し ・保安力向上センターの保安力評価システムの活用
	3. 設備および保全管理の向上	・設備トラブルの原因を追究し、再発防止策を講じた ・計画的な設備保全を実施	○	・設備トラブルの原因の追究および再発防止 ・設備保全の維持向上
	4. 緊急時対応の充実	・重大災害や大地震などの最悪の事態を想定した対策の実施 ・緊急時対応基準やマニュアルを整備 ・事業継続計画訓練を実施	○	・重大災害や大地震などの最悪の事態を想定した対策の実施 ・緊急時対応基準やマニュアルの整備 ・事業継続計画訓練の充実
労働安全	1. 休業災害人数ゼロ	・信越化学は1名 ・グループ全体では2名	×	・休業災害人数ゼロ
	2. 不休以上の災害度数率0.5以下	・信越化学は0.37で目標達成 ・グループ全体でも0.44で目標達成	◎	・不休以上の災害度数率0.5以下
	3. 作業の安全性の向上	・「ゼロ災」活動を実施(KY活動*4、指差し呼称、5S活動*5の実践) ・ヒヤリハット提案および改善提案の推進と改善を実施 ・グループ事故災害事例や他社災害事例の、グループ内への確実な水平展開を実施	○	・「ゼロ災」活動の推進(KY活動、指差し呼称、5S活動の実践) ・ヒヤリハット提案および改善提案の推進と改善の実施(推進目標の設定) ・グループ事故災害事例や他社災害事例の、グループ内への確実な水平展開
	4. マニュアルの整備と遵守の確認	・危険な作業の作業管理を強化し、マニュアルを整備	◎	・「非定常作業の安全対策の見直し」のマニュアルへの反映
	5. 作業のリスクアセスメントと対策	・計画に基づき、作業のリスクアセスメントを実施	○	・リスクの摘出と、対策の内容の高度化と充実 ・非定常作業時に想定される危険事象のリストアップと安全対策の総点検 ・設備改善が困難で危険な作業の特定および当該作業の監視体制の強化
	6. 工事および非定常作業の安全対策	・明確な作業指示や作業手順の明確化、KY活動を実施 ・工事ルールを厳密に運用 ・作業前および完了、復旧時の確認方法を構築し徹底	○	・明確な作業指示、作業手順の明確化、KY活動の実施 ・工事ルールの厳密な運用 ・作業前および完了、復旧時の確認方法の構築と徹底
	7. 教育・訓練の推進	・計画に基づき、教育や訓練を実施 ・資格取得を奨励 ・プロセスの安全を確保する、原理原則教育を実施	○	・教育訓練の計画的な推進 ・資格取得の奨励
	8. 業務委託の安全確保	・業務委託先との安全協力体制の見直しを実施 ・安全作業手順書や有害性および危険性情報(SDS)の提供と見直しを実施	○	・業務委託先との安全協力体制の見直し ・安全作業手順書や有害性および危険性情報(SDS)の提供と見直し
労働衛生	1. 快適職場づくり	・作業環境測定と作業環境の改善を推進 ・化学物質の取り扱い教育と保護具着用を徹底 ・職場のコミュニケーションを推進	◎	・作業環境測定と作業環境の改善推進 ・化学物質の取り扱い教育と保護具着用の徹底 ・労働安全衛生法の改正への対応の実施 ・職場のコミュニケーションの推進
	2. 心身の健康増進	・健康診断結果を活用し、フォローを実施 ・法規制改正による追加検査項目に対応 ・健康体力づくりを推進 ・心の健康づくり活動計画を推進	○	・健康診断結果の活用とフォロー ・法規制改正による追加検査項目への対応 ・健康体力づくりの推進 ・心の健康づくり活動計画の推進

安全

安全衛生・保安防災への取り組み

## 万全の安全対策を講じ、 日頃の教育や訓練に努めています。

信越グループは「安全・環境第一」とする経営方針を反映した、信越グループ環境保安管理方針を作成しています。さらに、各工場、グループ会社では、グループの基本方針を受けて作成した基本方針の下、安全衛生の活動計画を作成し、実行、評価、見直しを行うことによって、労働安全衛生の維持向上に努めています。

### 安全衛生

労働災害を未然に防止するため、職場にひそむさまざまな危険要因をリスクアセスメント活動で洗い出し、リスクの排除、低減によって作業の安全性の向上を推し進めています。

作業の安全に関する情報や技術、管理手法の見直しおよび整備を行い、その内容を作業関係者全員が理解することを徹底しています。そして、それらを後継者の養成や次世代に伝承していく仕組みの構築も始めています。

また、作業者が体験したヒヤリ、ハツとした事例や心配事などを「ヒヤリハット・気掛かり提案」として定期的に収集し、不安全な箇所には対策を講じています。同時に、それらの情報を社内外に公表することにより、危険情報の共有を図っています。

その他、作業前KY活動や指差し呼称などの安全活動や、定期的な作業環境測定の実施などの快適な職場づくりにも重点を置いて進めています。

### 保安防災

重大事故災害を未然に防止することを最重点課題とし、プロセスの安全性と設備の健全性を確保するためにさまざまな保安防災の活動に継続して取り組んでいます。

2013年度からは、特にプラントの異常事態を想定したリスク評価を行い、効果的な安全対策を実施することにより、自主保安管理の強化を図っています。

2012年度には認定NPO法人 安全工学会の保安力向上センターの支援会員となり、2013年度から、同センターが開発したプラントの安全確保の仕組みや技術、安全の組織や文化などを評価する「保安力評価システム」を活用して、各工場の保安力を評価しています。2014年度は、信越化学 群馬事業所の保安力を評価しました。今後もこのシステムによる評価を行って、評価結果が低い項目のみならず、対応すべき事項があれば安全課題として計画的に改善に取り組み、保安防災力の一層の向上に努めていきます。

### 安全衛生で「厚生労働大臣奨励賞」を受賞

信越石英(株) 郡山工場 工場長 須釜明彦 工場長室長 川口博夫

信越石英(株) 郡山工場は2014年6月に、安全衛生などで功績があった事業所として「厚生労働大臣奨励賞」を受賞しました。当工場の計画的な教育、訓練や能力向上の取り組みを通じて、労働安全衛生マネジメントシステムを積極的に展開した結果、長年にわたり休業災害が発生していない点が評価されました。

2013年にも「福島労働局長賞」を受賞しており、今回はそれに続いての受賞となります。今後も従業員一同、気を緩めることなく、さらに継続して工場の労働安全衛生に気を配りながら勤務していきます。



WEB ヒヤリハット事例 <http://www.shinetsu.co.jp/jp/company/csr.html#security>

### 教育・訓練

工場の安定、安全運転を維持し継続するには、従業員一人一人の技能や知識、安全への意識の向上が重要となります。そのため、化学物質取り扱い教育、危険体感教育といった各種の教育や研修を計画的に実施しているほか、製造設備の運転技術の確実な伝承のための取り組みにも注力しています。またルールを守る職場づくりを通じて、安全文化の醸成にも努めています。

### 環境保安監査

信越グループの各工場の環境保全や労働安全衛生、保安防災などの活動が計画通り確実に実施されているかを検証、確認するために、環境保安監査やテーマを定めた特別監査を毎年実施しています。

2014年度の監査では、他社の事故を受けて出された社内通達「工場の安全管理の徹底について」の実施状況、および「非正常作業の安全対策について」の確認を行いました。

### 公開防災訓練の実施

信越(江蘇)光棒社 安全環境部長 乔 俊阳

当社は2014年4月に中国江蘇省の臨港経済開発区利港園区で、大量の水素漏えいを想定した公開防災訓練を実施しました。これは、2013年に中国で起きたパイプラインの破損によるガス漏れや爆発事故の発生を受け、水素ガスパイプラインを持つ当社が江陰市政府から指名されて行ったものです。シナリオ作成や机上訓練、現場での予行練習など準備は大変でしたが、非常時の任務の確認にもなり、良い経験となりました。今後も定期的な訓練を行い、安全第一で操業を継続していきます。



### 事故・災害の報告

2014年度は、グループ全社で2件の休業災害がありました。それぞれの要因解析の結果から、取り扱い物質の危険性を見直しや危険な作業の排除、設備的な安全防護を基本とした対策を実施しました。さらに、作業マニュアル整備も進め、再発防止に取り組んでいます。今後も、これらの決定事項を確実に遵守するよう徹底して、労働災害の防止に努めていきます。

### 休業災害人数と度数率の推移(国内グループ)



株主・投資家の皆さま

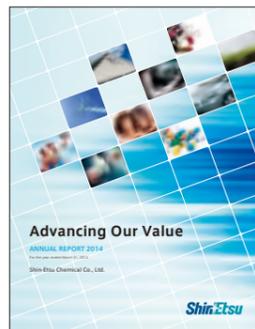
## 株主や投資家の皆さまとの対話を重ねています。

### 情報開示

信越グループは、株主や投資家の皆さまに対する適時適切な会社情報の開示が、当社に対する理解の促進と適正な市場評価につながると考え、当社ホームページへの掲載や証券取引所および報道機関への発表、アニュアルレポートや株主向け報告書などを通じて、公平かつ透明性のある情報開示を行っています。



しんえつ・レポート



アニュアルレポート

### 利益還元の方針

信越グループは長期的な観点に立ち、事業収益の拡大と企業体質の強化に注力しています。そうした経営努力の成果を株主の皆さまに適正に還元することを基本とし、配当を行っています。また、内部留保金は設備投資、研究開発投資などに充て、企業価値をさらに高めるために、国際的な競争力の強化と今後の事業展開に積極的に活用しています。

なお、2014年度の年間配当金は、一株当たり100円とさせていただきます。

### コミュニケーション

#### 株主総会

信越化学は定款に従い、年1回、定時株主総会を開催しています。開催にあたっては、株主の皆さまに議案を十分にご検討いただけるよう、招集通知の早期発送を行っています。また、招集通知とその英訳版を当社ホームページにも掲載し、株主の皆さまの利便性の向上を図っています。

なお、株主総会では決算に関する報告、議案の決議のほか、株主の皆さまからのさまざまなご質問にもお答えしています。

#### その他のコミュニケーション

機関投資家やアナリスト向けの決算説明会や電話会議を四半期ごとに開催するほか、随時、国内外の機関投資家やアナリストの個別取材にも応じています。証券会社主催のカンファレンスにも積極的に経営陣が出席し、来場の皆さまとの質疑応答を行うなど、直接対話することにより信越グループへの理解を深めていただくよう、努めています。



機関投資家・アナリスト向け 信越化学 武生工場見学会(2014年6月)

お客さま

## お客さまに安心して製品をお使いいただくために。

### 品質管理

#### 品質管理体制

信越グループは、信越化学の各事業部やグループ各社それぞれが責任を持って、お客さまが安心して長く使用することができ、また、使用した時に満足感が得られるような製品やサービスの提供を行っています。信頼性と満足度の高い製品やサービスを提供できるよう、事業所ごとに品質方針を定め、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを回すことにより、品質管理システムの有効性の確認と製品の品質やサービスの向上に努めています。

お客さまのご要望は、お客さまの声を直接伺う営業をはじめとした窓口を通し、研究開発、品質保証、製造の各部門に速やかに伝達されます。これらの情報は、新規製品の研究、開発および、既存製品の改良に活用され、お客さまとの信頼関係を強化する仕組みが構築されています。

なお、当社グループの国内および海外の製造拠点のほとんどが、ISO 9001やISO/TS 16949などの品質マネジメントシステムの認証を取得しています。

#### クレーム・コンプレイン対応

品質に関するお客さまからのクレームやコンプレイン(苦情)は、情報を受けてから48時間以内に第一報をお客さまに回答することを規定、徹底しています。

事業部が主体となってクレームやコンプレインの原因究明、再発防止に取り組んでいます。特に、社会的影響が大きい品質クレームであるリコールや製造物責任問題を重大クレームと定義し、それ以外のクレームと区別して重点管理しています。重大クレームが発生した場合は、速やかに経営トップに報告し、全社的に対応する仕組みが構築されています。

#### 品質監査・支援

品質問題ゼロを目標に、お客さまからのクレームやコンプレイン情報に学び、品質と顧客サービスの向上を目的とした品質監査を定期的を実施しています。品質監査では、品質管理活動や品質管理の仕組みの弱点を補強するため、各部門の品質活動の状況を、お客さまの視点と品質コストの視点で評価しています。特に、過去のクレームに学び、真の原因は何かを追究し再発防止を図る体質強化を目指しています。指摘事項に対しては改善のPDCAを進め、フォローアップを行っています。また、品質水準向上のための活動として、シックスシグマ活動\*を全社的に展開しています。

\*シックスシグマ活動  
1980年代にモトローラ(米国)で開発された品質改善手法。ばらつきが発生しているプロセスに着目し、ばらつきを抑えることにより品質不良の発生を抑制し、品質改善を図ろうとする活動で、信越グループ全体で取り組んでいる。

### 第15回信越シックスシグマ活動成果報告会

信越グループでは2000年から、各生産拠点を中心にシックスシグマを展開しています。2015年2月には技術担当役員、環境保安担当役員も出席のもと、第15回信越シックスシグマ成果報告会が開催されました。報告会では品質改善の他、生産性の向上、物流コストの削減などに関する活動報告がありました。

信越シックスシグマの活動は、お客さまの満足度を高めることにもつながります。今後ものづくりの現場で生かせるよう、活動を推進していきます。



### 製品安全の推進

製品開発から製品化に至るそれぞれの工程においてFMEA\*1などを実施し、システムや製品安全に影響を与える可能性のある項目を抽出し、定量的に評価し、製品設計や製造プロセスの改善に努めています。

お客さまには、製品ごとにSDS\*2を作成し提供しています。危険性や有害性などの製品の性状をご理解いただき、必要に応じて法的な手続きや除害設備の設置、保護具の着用など、安全な取り扱いの徹底をお願いしています。

輸送途中での安全対策として、イエローカード\*3の発行や容器イエローカード\*4の貼付を実施しています。また、GHS\*5方式に従った危険性や有害性の警告を表示しています。

国内では、新規の化学物質の開発段階で安全性を確認するとともに、化審法や労働安全衛生法などの関係法令に従って製造許可などの届出を行い、適正に管理しています。また、信越グループではREACH規制\*6に対応し、サプライチェーンでの適切な情報伝達など規則遵守に取り組んでいます。さらに、RoHS指令\*7に対応するため、特定有害物質を全く使用しない新しい製造技術の開発なども行っています。

- \*1 FMEA (Failure Mode and Effects Analysis)  
製品または工程について、問題が発生する前に問題を識別し予防する、体系的な手法。
- \*2 SDS (Safety Data Sheet)  
安全データシート。化学物質の化学的、物理的性状とともに有害性や緊急時の措置などに関する情報を記載している。化学物質の安全な取り扱いや事故防止を目的に、製造、輸入、販売の事業者が顧客に販売・出荷する際に提供している。
- \*3 イエローカード  
化学物質の輸送時の安全対策として、事故時の処置に関する情報を記載した黄色のカード。タンクローリーなどの輸送時に運送業者に渡し、輸送時に携帯している。
- \*4 容器イエローカード  
混載便や少量品の輸送ではイエローカードが活用できないため、容器ごとに安全情報(化学物質名の国連番号と緊急時応急措置指針番号)を記載したラベルを貼付している。
- \*5 GHS (The Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals)  
化学物質の分類および表示方法について、国際的に調和(統一)させたシステム。
- \*6 REACH規制(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)  
化学物質の登録、評価、許可、制限に関するEU規制。
- \*7 RoHS指令(The Restriction of the use of certain Hazardous Substances)  
電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関するEU指令。

### お取引先さま

## 公正な資材調達活動と環境に配慮した サプライチェーンの構築に努めています。

### 調達基本方針

主原料や物流包装材を含む副材料、ならびに機器装置などの生産活動に必要な資材を購入するにあたり、「調達基本方針」を策定し、社内に徹底するとともにホームページで公開しています。

お取引先さまには当社の「調達基本方針」を理解していただき、取引基本契約の中にその内容の記載をお願いしています。

### 下請法の遵守

下請法の対象となるお取引先さまに関し、定期的な確認および新規取引報告を通じて、漏れないよう対応を行っています。また、購買・調達担当者は随時、外部講習あるいは社内における具体的な事例での研修会などに参加し、下請法遵守の意識向上を図っています。

さらに、当社に原材料を納入されているお取引先さまに対しても、下請法遵守の徹底をお願いしています。

### 紛争鉱物排除の取り組み

全ての調達品から紛争鉱物\*を排除することを、調達基本方針で宣言しています。お取引先さまにはその方針の遵守をお願いするとともに、該当の鉱物について、製錬所までさかのぼった調査を定期的に行っています。

\* 紛争鉱物  
コンゴ民主共和国およびその隣接国の紛争の資金源となっている鉱物。タンタル、スズ、金、タングステンやそれらの派生物を指す。

### 調達監査

取引前および取引開始後には、調達監査チェックリストの記入をお取引先さまに対してお願いし、評価を実施しています。また、必要に応じて、国内外のお取引先さまの訪問監査を実施しています。

### 事業継続のための取り組み

信越グループでは事業継続計画を策定し、万が一の事態に備えています。お取引先さまにも当社グループの事業継続計画の有効性、実効性をご理解いただき、事業継続計画の策定をお願いしています。

### 原材料の化学物質管理

環境負荷の少ない物質を購入するために、お取引先さまのISO 14001の取得状況を確認し、ISO取得の納入業者に対しては、優先的な取引を検討しています。

原材料の納入に関する仕様の締結においては、製品、梱包材料の環境負荷化学物質の使用調査、および環境管理体制、RoHS指令で定められている使用禁止物質の取り扱い状況、グリーンパートナーの認定状況などを把握するように努めています。

また、REACH規制の本登録に対応しています。

地域社会

地域社会とのコミュニケーションを図っています。

第4回東日本大震災被災地支援マルシェの開催

日本

2015年3月に信越化学本社がある朝日生命大手町ビルで、第4回東日本大震災被災地支援マルシェが開催されました。東京にいながらできる被災地支援として、信越化学および信越半導体(株)もマルシェの運営に協力し、福島県、岩手県、宮城県の特産品や日本酒が販売されました。



文化講演会の開催

日本

信越化学の創立60周年を記念して設立された公益信託信越化学地域文化振興基金は、2014年10月に落語家でタレントのヨネスケ氏を招いて、毎年恒例の文化講演会を行いました。ヨネスケ氏は、落語家ならではの軽快な話芸で多くの笑いを誘いながら、食をはじめ、日本文化の継承の大切さを力強く語りました。



献血推進で「厚生労働大臣表彰」を受賞

日本

信越グループ各社では、社会貢献の一環として定期的に献血を行っています。信越半導体(株)白河工場は、福島県赤十字血液センターへの長年にわたる献血推進に積極的に協力したことが評価され、2014年7月の「第50回献血運動推進全国大会」で厚生労働大臣表彰を受賞しました。



NPO法人「科学宅配塾」の体験教室に協力

日本

信越化学のシリコーン事業本部は、NPO法人「科学宅配塾」が主催する体験教室に協力しました。教室では参加した小学生や保護者を対象に、型取り用RTVシリコーンを用いて、自分の指の型取り体験を行いました。参加者にシリコーンに興味を持っていただくだけでなく、科学が身近にあることを伝えることができました。



地域のレスポンシブル・ケア活動機関とのプロジェクト

ポルトガル

2014年にシレス社が参加するPACOPAR\*が、エストラージャ市の12の地元団体に対して、45,000ユーロの助成金を贈りました。

この助成金は社会福祉の基盤整備や設備調達に役立てられ、エストラージャ市の社会的支援や市民の安全保護に貢献しています。



\* PACOPAR (Painel Consultivo Comunitário do Programa Atua ção Responsável)  
エストラージャ市のレスポンシブル・ケアプログラムの地域諮問委員会。

操業10周年の周年事業で地域社会に貢献

ドイツ、タイ

2014年に操業10周年を迎えた海外のグループ会社3社が、周年事業の一環でさまざまな地域貢献活動を行いました。

ドイツのSEタイロース社では、従業員がまだ使用できる不要な空容器や廃材を売却して得たお金を、貧困者への食料の寄付を行っている近隣の学校や慈善団体へ寄付しました。この寄付により、学校は待望の図書館を開設することができました。また、貧困者は月に数回、食料の配給を受けられるようになりました。



地域社会とのコミュニケーション  
<http://www.shinetsu.co.jp/jp/company/society.html>

タイのアジア シリコーンズ モノマー社とシンエツシリコーンズ タイランド社は約1か月間をかけて、地元の学校の老朽化していた多目的施設の改修を行いました。改修された施設は今後、同校の教師や児童のみならず、集会や選挙、結婚式などの地域の行事に幅広く活用されることが期待されています。

マラウイ共和国に当社製品を寄贈

マラウイ

認定NPO法人ミレニウム・プロミス・ジャパン(MPJ)を通じてマラウイ共和国の皆さんに、当社の塩ビで作られた手提げ袋やシリコーン製のグラス「シュアア」などを寄贈しました。MPJはアフリカの貧困削減や教育の向上、男女平等の推進、自立支援などに取り組んでおり、信越化学もその活動を支援しています。



国連「世界難民の日」募金活動

日本

2014年も、国連が定めた6月20日の「世界難民の日」に合わせた募金活動を行いました。信越化学本社、工場、グループ各社から集まった募金を国連UNHCR協会に託し、年々増え続ける世界中の難民の皆さまの支援に役立てていただいています。また、今回も会社がマッチング寄付を行いました。



## 働く人の自己実現を支援しています。

信越グループでは、基本的な人権を尊重し、従業員一人一人が健康で、自己実現やキャリア形成を可能にする働きやすい職場環境づくりの実現のために、さまざまな取り組みを行っています。

### 人権の尊重

#### 人権啓発推進委員会

信越グループは企業の立場から、さまざまな人権に関わる課題への対応と、働きがいのある明るい職場づくりを目指し、人権啓発推進委員会を組織しています。委員会では役員および従業員を対象とした人権啓発研修を定期的実施しています。さらに、社内報での人権Q&Aの連載や、毎年12月の人権週間に合わせた人権啓発標語の募集を行い、人権意識の高揚に取り組んでいます。

また、東京人権啓発企業連絡会および大阪同和・人権問題企業連絡会に加盟し、連絡会の事業や行政の運動団体が開催する研修会に積極的に参加しています。

#### 児童労働・強制労働排除の取り組み

信越グループは国際的規範にのっとり、あらゆる形態の児童労働、強制労働を認めません。毎年実施している海外を含めたグループ会社に対する調査によって、国際労働機関 (ILO) による国際労働基準に基づいた雇用を行い、児童労働、強制労働がないことを確認しています。

### 多様性の尊重

#### 育児支援制度・介護休業制度

信越グループは従業員の出産、育児を支援する制度を充実させています。育児休業制度は、子どもが満3歳になるまで取得可能で、これまで多くの従業員が活用しています。また、1日2時間までを限度に勤務時間を短縮する短時間勤務制度は、子どもが小学校3年生になるまで利用することができます。

介護休業制度は、一定の条件の下、対象家族1人につき最長1年間取得することが可能です。なお、国内連結会社の2014年度の取得者は3名でした。さらに、従業員の介護支援のため、2014年度より「健康管理・介護サポート」サービスの提供を始めました。

#### 育児休業制度利用者数(2014年度)

信越化学(単体)	10名(男性2、女性8)
国内連結会社	47名(男性3、女性44)
連結会社全体*	142名(男性56、女性86)

\*育児休業期間は、各国の法律にのっとっているため、国によって異なります。



本社地区の有志によるママランチ会

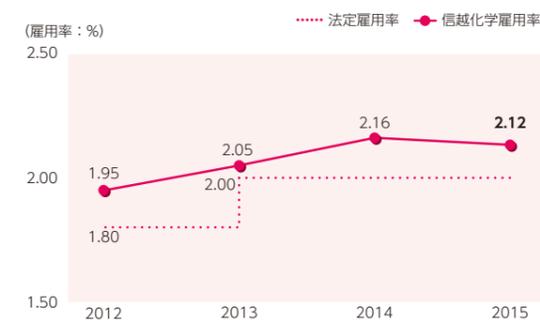
#### 多様な人材の活躍促進

グローバルに事業展開する信越グループは、海外グループ会社での現地採用に加え、外国人の採用にも取り組んでいます。

また、グループ全体で、障がい者を積極的に雇用し、働きやすい環境づくりを推進しており、法定雇用率を上回っています。

高齢者雇用については、60歳の定年を迎えた従業員を対象にしたシニア社員制度を設け、65歳まで再雇用しています。

#### 障がい者雇用率グラフ



#### 海外グループ会社が、障がい者の雇用で表彰

SEHアメリカ社は地元の商工会議所および発達障がい諮問委員会から、障がい者の大規模な民間雇用者として表彰されました。25年間にわたり、およそ23名の要支援従業員を毎年雇用し続けていることが、今回の受賞につながりました。

さらに、同社の倉庫で働くティム・リー(写真中)は、優れた仕事ぶりから、年間の最優秀要支援従業員として表彰されました。



### 成果主義による人事考課制度と機会の均等

信越グループでは、従業員の能力や仕事での成果を重視した人事制度を導入しています。高い目標に向かって挑戦することを評価し、その成果と姿勢を処遇に反映することにより、従業員の意欲向上につなげています。

人事制度を公正かつ適切に運用するために、人事考課を行う全ての管理職を対象とした考課者訓練を実施し、公平な評価ができるよう取り組んでいます。また、透明性をさらに高めるために、評価基準の公開や結果の開示を行うとともに、考課者と被考課者の面談制度を設けて、両者の意思の疎通を図っています。

面談では、上司と部下が「コミュニケーションシート」を活用し、上司が部下に遂行してほしい期待と部下が取り組みたい課題をお互いに確認し合いながら、半年間の目標を設定するとともに、その成果のフィードバックを行い、さらなる能力開発を進めています。

### 健康への配慮

#### 健康増進への取り組み

定期健康診断の充実や生活習慣病に関する保健指導、メンタルヘルス対策、健康体力づくり活動を推進し、疾病の予防に努めています。

本社・支店では衛生委員会、各工場地区では安全衛生委員会を設け、職場環境の改善、健康障害の防止策などについて産業医から情報提供、指導を受けながら活動を行っています。

さらに、健康体力作り推進委員会では、医務室と協力し、体力測定やセミナー、体力向上のためのイベントを開催しています。また、従業員の家族を含めた健康をサポートするために、健康保険組合が専門機関と提携し、24時間対応可能なファミリー健康相談窓口を設置しています。

教育・研修、自己啓発

聴講生制度

信越化学では、1962年に聴講生制度を発足。現場力の向上を目的として、信越グループの生産現場のオペレーターなどを毎年数名から10名程度を選抜し、1年間大学に派遣する制度です。発足以来52年間で延べ516名の従業員が同制度を修了し、各職場で活躍しています。

国際化適応研修

信越グループの事業活動は世界各地に広がっており、円滑な業務遂行のためには外国語でのコミュニケーション能力が必要不可欠となっています。そこで、当社グループでは、英語でのミーティングやプレゼンテーションの能力向上を目的とした英語研修、海外で日々遭遇する異文化についての理解を高めるための異文化間コミュニケーション研修や、中国語会話教室を実施しています。

研修制度

	階層別研修	専門教育	一般教育	特別教育	環境・安全教育	品質管理教育	シックスシグマ教育
部長層	アドバンスト マネジメント 研修 S・M研修	●特許研修					
課長層	ミドルマネジメント研修	●国際化適応研修 英語研修 ミーティング スキルコースI・II	メンタルヘルス セミナー	経営幹部育成講座 (外部研修)	環境保安 専門教育	QC*マスター コース	ブラックベルト 研修
係長層	ラインマネジ メント研修 スタッフマネジ メント研修 リーダー研修	英語研修 プレゼンテーション スキルコースI・II 中国語会話	人権啓発研修		監督者教育	QC中級コース	グリーン ベルト 研修
一般社員	ジュニアリーダー研修 新入社員二次研修 新入社員導入研修	異文化間コミュニ ケーション研修		聴講生制度 (1年間)	安全教育 特別教育 基礎教育 新入社員教育	QC基礎コース	

福利厚生

積立年休制度

就業規則に基づき年次有給休暇が付与されていますが、その年次有給休暇が失効した場合も、一定の日数を積立年休として取り扱っています。積立年休は、家族の介護休業時や私傷病による休業時、地域災害ボランティア活動、臓器・骨髄移植ドナーとなるときなどに使用することができます。

従業員のホットライン

仕事の悩みなどを相談できる窓口として、カウンセリングの資格と経験を持つ社外の専門カウンセラーが対応する「ダイヤルShin-Etsu」を設けています。匿名・秘密厳守で相談を受け付けていますが、希望があればカウンセラーから人事部門へも連絡を取り、対応を検討することも可能です。

新幹線通勤制度

1989年から、会社負担による新幹線通勤を認めています。この制度によって、従業員の持ち家の促進を図るとともに、群馬県や福島県の工場・事業所から本社に転勤する際も、生活環境を変えることなく異動することが可能になりました。2015年3月現在で、73名がこの制度を利用しています。

その他の制度

ダウ・ケミカル日本初代社長でアメリカ商工会議所元会頭のロバート・ベーカー氏と当社会長の金川が、信越グループの従業員の子を対象としたBAKER-KANAGAWA日米奨学金制度を設立しました。また、近年、アメリカのワシントン州立クラークカレッジへ1年間留学する、Dr. Kanagawa奨学金制度も設立されました。長年築いてきた同大学と金川との友好的関係から生まれたものです。

その他にも、財形貯蓄制度、持株会制度、さらに

\* QC(Quality Control)  
品質管理。製造業においては、従業員が自発的に職場の管理や改善を検討し、品質改善につなげていく活動も指す。

結婚や出産、急な家族の入院などを支援するための共済会を設けています。

労使関係

信越化学は、信越化学労働組合とさまざまな話し合いの場を通じて、相互理解に努めています。毎月本社で開催している「中央労働協議会」には経営トップが出席し、経営方針や個別事業の概況、人事制度などについて話し合っています。また、各事業所でも、毎月、信越化学労働組合の各支部と「地区労働協議会」を行っています。

労使の対話を重ねることで、相互の理解と信頼が一層深まり、事業環境の変化にも即応できる労使一体となった事業運営を実現しています。

クラークカレッジ留学体験記

(信越半導体(株) 白河工場 菊池茂子 子息) 菊池 純

2013年9月から約1年間、Dr. Kanagawa奨学金制度を活用して、アメリカのクラークカレッジに留学しました。ホームステイや学校生活を通して、日を追うごとに英語とともに文化や生活習慣の違いにも理解が深まり、新鮮な異文化に興味が増しました。また、アメリカならではのさまざまな国籍を持った人々との出会いも、貴重な体験でした。

留学して実際に目にする事、手にすること、耳にすることというような体感する喜びは、頭で考える以上に素晴らしいものでした。今日の国際化の流れにおいて、この経験が今後の私の人生にとってかけがえのない財産となる、と確信しています。



最後列右から4人目が本人

活動の歩み

信越グループの取り組み		安全・環境・労働衛生関連の表彰実績	
1926年	信越窒素肥料株式会社として発足 (1940年、社名を信越化学工業株式会社へ改称)	1926	
2005年	CSR推進委員会設置	2005年	安全衛生優良事業場 厚生労働大臣優良賞(信越化学 鹿島)
2005年	セルロース排水回収設備設置(信越化学 直江津)	2006年	新潟県労働基準局長 優良賞(衛生)(直江津精密加工)
2005年	環境基本憲章を改訂	2006年	第五種無災害記録証(信越フィルム：現在も記録更新中)
2005年	コジェネレーション設備増設(信越化学 鹿島)	2007年	長野労働局長 優良賞(長野電子)
2006年	シリカ製造時の塩酸回収設備設置(信越化学 群馬)	2007年	長野労働局長 奨励賞(しなのポリマー)
2006年	レスポンシブル・ケア世界憲章に署名	2007年	タイ労働省 EHS最優秀工場賞 (アジア・シリコン・モノマー)
2006年	ボイラー設備燃料転換(長野電子 千曲)	2008年	労働安全衛生福井県労働局長 優良賞(福井信越石英)
2007年	蒸留プロセス改善による蒸気削減設備設置 (信越化学 鹿島)	2008年	タイ労働省 EHS最優秀工場賞 (アジア・シリコン・モノマー)
2008年	天然ガス燃料転換設備設置(信越化学 群馬)	2009年	タイ労働省 無休業事故連続100万時間達成表彰 (シンエツ・シリコンズ・タイランド)
2008年	排水の生物処理設備増強(信越化学 群馬)	2009年	高圧ガス保安 経済産業大臣表彰(信越半導体 武生)
2008年	蒸留塔の熱回収設備設置(日本酢ビ・ポパール)	2009年	高圧ガス優良事業所 経済産業大臣賞(鹿島塩ビモノマー)
2008年	ガスタービン設備設置(信越化学 群馬)	2009年	タイ労働省 EHS最優秀工場賞 (アジア・シリコン・モノマー)
2008年	ボイラー燃料転換(タツノ化学)	2010年	埼玉労働局長 奨励賞(浦和ポリマー)
2008年	液化天然ガス貫流ボイラー設置(日信化学)	2010年	東北七県電力活用推進委員会 委員長賞(信越石英 郡山)
2008年	シリカ排熱回収設備設置(信越化学 群馬)	2010年	新潟県 環境保全優良企業所表彰(直江津精密加工)
2009年	高効率ターボ冷凍機設置(信越半導体 磯部)	2010年	高圧ガス保安 原子力安全保安院長表彰(日信化学)
2009年	フリークーリング採用プロセス空調設備設置 (信越半導体 武生)	2010年	タイ労働省 EHS最優秀工場賞 (アジア・シリコン・モノマー)
2010年	ボイラー設備燃料転換(長野電子)	2010年	オハイオ州 50万時間無災害表彰 (シンエツ・シリコンズ・オブ・アメリカ)
2010年	インバーター・ターボ冷凍機設置(長野電子)	2010年	米国安全性評議会 Occupational Excellence Achievement Award(シンテック)
2010年	国連グローバル・コンパクトに参加	2011年	タイ労働省 EHS最優秀工場賞 (アジア・シリコン・モノマー)
2010年	浄油装置設置(台湾信越シリコン)	2012年	日本ソーダ工業会 40年無災害特別賞(信越化学 直江津)
2011年	トムソン・ロイターTop100グローバル・イノベーション・ アワード(信越化学)	2012年	第二種無災害記録証810万時間(信越化学 群馬)
2011年	韓国知識経済部 国家品質経営大会金賞 (韓国信越シリコン)	2012年	タイ労働省 EHS最優秀工場賞 (アジア・シリコン・モノマー)
2011年	電力デマンド監視装置設置(信越化学 群馬)	2013年	第一種無災害記録証540万時間(信越化学 直江津)
2012年	トムソン・ロイターTop100グローバル・イノベーション・ アワード 2年連続受賞(信越化学)	2013年	福島労働局長 優良賞 安全確保対策(信越石英 郡山)
2012年	韓国知識経済部 国家品質経営大会金賞(2年連続) (韓国信越シリコン)	2013年	新潟労働局長 奨励賞 衛生管理(信越半導体 犀潟)
2012年	多段式生物廃水処理設備導入(信越シリコン南通)	2013年	福井県知事 交通安全の推進功績(福井信越石英)
2013年	トムソン・ロイターTop100グローバル・イノベーション・ アワード 3年連続受賞(信越化学)	2013年	タイ労働省 EHS最優秀工場賞 (アジア・シリコン・モノマー)
2013年	(一社)日本IR協議会 IR優良企業賞2013(信越化学)	2013年	タイ労働省 無休業災害連続300万~1,000万時間達成 (シンエツ・シリコンズ・タイランド)
2013年	韓国知識経済部 国家品質経営大会金賞(3年連続) (韓国信越シリコン)	2013年	東北経済産業局 エネルギー管理優良工場表彰 (直江津電子)
2014年	トムソン・ロイターTop100グローバル・イノベーション・ アワード 4年連続受賞(信越化学)	2013年	第12回グリーン物流パートナーシップ会議 国土交通省物流審議官表彰(信越化学)
2014年	改訂版レスポンシブル・ケア世界憲章に署名	2014年	安全衛生優良事業場 厚生労働大臣奨励賞(信越石英 郡山)
		2014年	エネルギー管理優良事業者 関東経済産業局長賞 (直江津電子)

加盟団体 (一社)日本経済団体連合会 (一社)プラスチック循環利用協会 (一社)グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク  
(一社)日本化学工業協会 エフイーシー民間外交推進協会 ミレニアム・プロミス・ジャパン など  
塩ビ工業・環境協会 (公財)日本ユニセフ協会

(2015年3月31日現在)

信越グループISO14001認証取得一覧  
<http://www.shinetsu.co.jp/jp/company/csr.html#environment>

RC報告書検証

「環境・社会報告書 2015」  
第三者検証 意見書

2015年5月29日

信越化学工業株式会社 代表取締役社長 森 俊三 殿

一般社団法人 日本化学工業協会  
レスポンシブル・ケア検証センター長 高瀬純治

■検証の目的  
本検証は、信越化学工業株式会社が作成した「環境・社会報告書2015」(以後、報告書と略す)に記載されている、下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア活動の評価
- 4) 報告書の特徴

■検証の手順  
・本社において、各サイト(事業所、工場)から報告される数値の集計方法の合理性、数値の正確性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びに彼らより資料提示・説明を受けることにより行いました。  
・武生工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、資料提示・説明を受けること、並びに現地での現物確認を含む証拠物件との照合により行いました。  
・数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■意見  
1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について  
・数値の算出・集計は、本社及び武生工場において調査した結果、合理的な方法を採用しています。  
・調査した範囲に於いて、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。

2) 数値以外の記載情報の正確性について  
・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは用語の整合性等に関し、若干問題があることを指摘しましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。

3) レスポンシブル・ケア(RC)活動の評価について  
・信越グループ124社(国内189拠点、海外104拠点)を対象に、グローバルにRC活動を展開しています。また、集計システムを導入して、内外の非生産部門を含めたパフォーマンスデータを集計していることを評価します。  
・信越化学は、他社の事故事例を詳細に分析し、信越グループの状況に対応した具体的な確認項目を作成したうえで、工場およびグループ各社に見直し点検を指示し、その結果をフォローアップして、事故防止に努めていることを評価します。  
・2013年度に導入した安全工学会が主導する「保安力評価システム」を、2014年度は群馬事業所に水平展開しています。2工場で評価した知見を他の工場の保安力強化に活用されることを期待します。  
・信越グループでは、世界的な水資源保全の重要性に鑑み、取水量単位の削減活動を進めて、2014年度は生産量が増加したにもかかわらず取水量の削減を実現していることを評価します。  
・武生工場では、RC活動が着実に実施されています。また、住宅地に隣接した工場として、地域環境との調和を目指し、地域の環境活動への参加、地域住民との交流を継続していることを評価します。

4) 報告書の特徴について  
・信越グループが、製品や技術を通じて、温室効果ガス削減、生態系保護、社会インフラの整備、高齢化社会など社会課題の解決に貢献していることを、特集記事で簡潔に紹介しています。

以上